

奈良まほろばソムリエが作る  
ズバリ！奈良検定2級の  
**要点整理**  
2025年(第18回)試験対策版




Written by Norio Tetsuda & Keiko Nishi

## CONTENTS

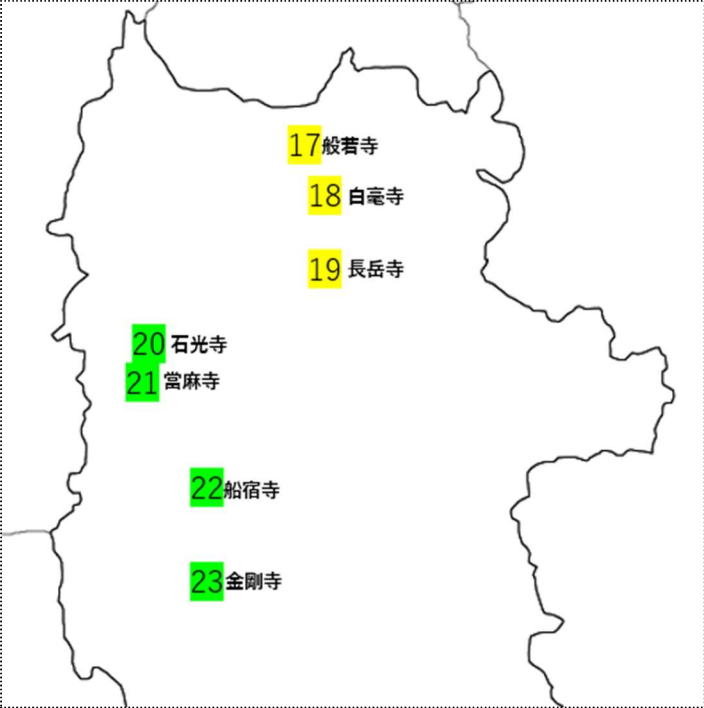
1. 地勢・天然記念物
2. 花の名所
3. 歴史
4. 遺跡・古墳・史跡
5. 寺社
6. 彫刻・建築・絵画
7. 文学
8. 伝統工芸・特産品
9. 祭り・行事
10. 観光・文化
11. 特集問題

# 1. 地勢 (P26~29)・天然記念物 (P234~241)

赤字=下線部分：過去問で答となったキーワード。

項目	解説	公式テキスト頁
◆ <b>奈良の地勢</b>		
<b>奈良の面積</b>	日本の国土面積の約 <b>百分の一</b> が奈良県。	26
<b>市町村</b>	<b>12</b> 市 15 町 12 村 (2017 年 4 月現在)。 <b>十津川村</b> は、日本最大面積の村。	
<b>歴史的名称</b>	奈良盆地=国中、生駒・金剛山地= <b>西山中</b> 、 <b>大和高原</b> =東山中、宇陀山地= <b>奥</b> 、吉野山地= <b>南山</b> 。	26
<b>奈良山丘陵</b>	(平城山丘陵) 奈良盆地北端、京都盆地との境、標高約 100m の東西丘陵。	27
<b>春日(山)断層</b>	山の辺の道に沿い、奈良盆地東縁を南北に走る断層。	28/94
<b>大和三山</b>	西から順に <b>畝傍山</b> 、 <b>耳成山</b> 、 <b>天香久山</b> 。	186
<b>屯鶴峰</b>	香芝市。凝灰岩が露出し奇峰や土柱等の特異な地形を形成(県天然記念物)。	207
<b>三輪山</b>	大神神社のご神体・禁足地。巨石や磐座があり山麓には檜原神社が鎮座。	145
<b>高見山</b>	山頂に高角神社が鎮座し、ブナ林や冬季の霧氷で知られる。東吉野村。奈良県東南部を南北に走る <b>台高山</b> 脈の名の由来は <b>大台ヶ原</b> と <b>高見山</b> から。	232 230
<b>神野山</b>	鍋倉溪(露出した黒褐色の角閃ハンレイ岩が谷を埋める)で知られる名所。	94
<b>若草山</b>	標高約 <b>340m</b> 。奈良公園で山林部の一角をなし奈良の風景に欠かせない山。	92
<b>金剛山</b>	金剛生駒紀泉国定公園にあり、金剛生駒連山の最高峰(1125m)。役行者の修行地。	209
<b>大和川</b>	奈良盆地を西に流れ「亀の瀬地すべり」地帯を形成し、大阪湾にそそぐ川。	
<b>佐保川</b>	春日山の山中に水源を発し、若草山の北麓を迂回して流れる川。	320
<b>吉城川</b>	東大寺南大門の西方にある依水園が遣水にしている川。	92
<b>猿沢池</b>	奈良観光の象徴的存在で、中秋の名月の日に行われる <b>采女祭</b> で知られる。	91
<b>奈良公園</b>	東大寺・春日大社・興福寺周辺に広がる緑地帯で鹿が生息し桜や藤の名所。	91
<b>桜アユ</b>	吉野山の桜にちなみ、呼び名に「桜」が冠された吉野川産のアユ。	
<b>ニホンオオカミ</b> (現在は絶滅)	最後に捕獲された <b>東吉野村</b> に、現在ブロンズの像が立てられている。	
<b>中央構造線</b>	奈良県のほぼ中央部を流れる <b>吉野川</b> (下流では「 <b>紀ノ川</b> 」)の河谷を中央構造線が走る。これより南は深い谷・急峻な山岳からなり、大峰山脈には <b>山上ヶ岳</b> 、近畿最高峰 <b>八経ヶ岳(1915m)</b> などが連なる。	26 230
<b>奈良の気候</b>	奈良盆地は瀬戸内式気候区(温暖寡雨)だが内陸性の盆地気候(寒暑の差が激しい)。 <b>大台ヶ原</b> は日本でも代表的な多雨地帯で、大正年間には1日 <b>1200ミリ</b> もの降雨を記録している。	28-29
◆ <b>国の天然記念物</b>		
<b>スズランの群落</b>		
<b>暖地性シダ群落</b>	<b>吐山</b> (奈良市都祁吐山町)と向淵(宇陀市室生向淵)。スズラン自生地南限。	236
<b>曾爾村の大断崖</b>	室生寺境内・無明橋付近。暖地性シダ類の北限。	237
<b>その他</b>	屏風岩、兜岩、 <b>鎧岩</b> 。俱留尊山が噴出した安山岩が青蓮寺川が浸食。 <b>オオヤマレンゲ</b> 自生地(八経ヶ岳周辺。鹿の食害)。	238 239-240
	奈良公園の鹿は <b>1,182</b> 頭(2022年7月現在。鹿苑の鹿を含まず) <b>第二次世界大戦後、頭数が激減した。</b>	236
	「 <b>瀧八丁</b> 」吉野熊野国立公園の変化に富んだ溪谷。(夫婦岩、竜泉窟)	231

## 2. 花の名所 (P242～252)

項目	解 説	公式テキスト頁
<b>◆花の名所</b>		
<b>桜</b>	奈良公園、 <b>郡山城跡</b> (大和郡山市)、吉野山 (吉野町 約3万本) ※奈良公園、郡山城跡、吉野山は、「全国の桜の名所100選」に選定された。 (吉野山の桜は、 <b>シロヤマザクラ</b> という品種である) ( <b>ナラノヤエザクラ</b> 昭和43年奈良県の花に選定)	242 243
<b>桃</b>	<b>山の辺の道</b> (天理市～桜井市)	244
<b>バラ</b>	<b>霊山寺</b> (奈良市)、 <b>松尾寺</b> (大和郡山市)、 <b>おふさ観音</b> (橿原市)	244
<b>牡丹</b>	「百花の王」 <b>長谷寺</b> (7000株、桜井市)	245
<b>シャクナゲ</b>	<b>室生寺</b> (宇陀市)	246
<b>ツツジ</b>	<b>長岳寺</b> (天理市)、 <b>葛城山</b> (「一目百万本」御所市)、 <b>船宿寺</b> (御所市)	247
<b>アジサイ</b>	<b>矢田寺</b> (金剛山寺 大和郡山市)、 <b>久米寺</b> (橿原市)	248
<b>ハギ</b>	<b>白毫寺</b> 『万葉集』に最も多く歌われている花	249
<b>彼岸花</b>	<b>葛城古道</b> (御所市)	249
<b>コスモス</b>	<b>般若寺</b> (奈良市)、 <b>安倍文殊院</b> (「コスモス迷路」桜井市)	249
<b>紅葉</b>	<b>正暦寺</b> (「錦の里」奈良市)	250
<b>梅</b>	<b>大和三大梅林: 月ヶ瀬(奈良市)、広橋(下市町)、賀名生(五條市)</b>	251
<b>椿</b>	<b>大和三名椿: 東大寺開山堂</b> の糊こぼし、 <b>白毫寺</b> の五色椿、 <b>伝香寺</b> の散り椿	252
<b>雪柳</b>	<b>海龍王寺</b> (奈良市)	244
<b>藤</b>	<b>春日大社</b> (「砂ずりの藤」奈良市) 春日大社の社紋	245
<b>ススキ</b>	<b>曾爾高原</b> (曾爾村)、葛城山 (御所市)、若草山 (奈良市)	250
<b>馬酔木</b>	春先にスズランに似た花が咲く (鹿が嫌うため、 <b>奈良公園</b> 一帯に群生)	252
<b>関西花の寺 25カ所霊場 (札所)</b>		
17:般若寺		
18:白毫寺		
19:長岳寺		
20:石光寺		
21:當麻寺		
22:船宿寺		
23:金剛寺		



### 3. 歴史 (P30～48)

項目	解 説	公式テキスト頁
<b>◆旧石器～古墳時代</b>		
旧石器時代の遺跡	<b>二上山</b> 北麓の「サヌカイト（讃岐石）原産地遺跡群」から県下で本格的な旧石器時代研究が開始。三郷町の <b>峯ノ阪遺跡</b> からはナイフ型石器が出土。	30 30
縄文時代の遺跡	<b>宮滝遺跡</b> は 1930 年から発掘調査の縄文時代後期の標本遺跡として知られる吉野地方の遺跡。	255
弥生時代の遺跡	唐古・鍵遺跡（田原本町）は、南北約 800m、東西約 650mの全国有数の巨大な環濠集落（弥生時代前期～後期）。 <b>唐古池</b> 底の発掘調査が契機。	31 256
宗教戦争 (崇仏と廃仏)	587 年、蘇我馬子は聖徳太子らと協力して <b>物部守屋</b> を滅ぼし、覇権を確立。 <b>蘇我馬子</b> は明日香村にある石舞台古墳の被葬者といわれる。	34
<b>東漢氏 (倭漢氏)</b>	朝鮮半島からの渡来人で飛鳥の檜隈に居住した集団。	34
<b>◆飛鳥時代</b>		
<b>豊浦宮</b>	592 年、推古天皇が豊浦宮で即位し、飛鳥時代が始まる。	34
<b>聖徳太子 (厩戸皇子)</b>	<b>用明天皇の皇子</b> 。 <b>叔母・推古天皇</b> を助け、蘇我氏と連合して執政。 <b>冠位十二階</b> および <b>十七条憲法</b> を定めた。607 年、太子は <b>法隆寺</b> を創建。 (現在の伽藍は、その後の <b>再建・非再建論争が繰り返された</b> )	34
<b>蝦夷・入鹿の横暴</b>	<b>甘樫丘</b> には蘇我蝦夷と入鹿の邸宅（上の宮門・谷の宮門）があったといわれる。643 年、 <b>山背大兄王</b> （聖徳太子の子）ら上宮家一族が斑鳩で入鹿によって滅ぼされる。	186 342
大化の改新	645 年、中大兄皇子・中臣鎌足は <b>飛鳥板蓋宮</b> で <b>蘇我</b> 蝦夷・入鹿父子を倒し <b>孝徳天皇</b> を擁立。 <b>難波宮</b> に遷都されるが次の <b>斉明天皇</b> が飛鳥に還都する。	35
<b>壬申の乱</b>	672 年、大友皇子と大海人皇子とが継承を争い、大海人皇子が旧豪族を倒して勝利。 <b>飛鳥浄御原宮</b> で天武天皇として即位し、持統天皇が引継ぎ律令政治を推進。	35
<b>大津皇子が自害</b>	686 年、大津皇子（天武天皇の皇子）は天武崩御の後、謀反の疑いをかけられて自害に追い込まれ、 <b>二上山</b> に葬られた。墓は鳥谷口古墳？	204
最古の通貨 藤原京遷都	明日香村の飛鳥池遺跡から国内最古の銅貨といわれる <b>富本銭</b> が出土。 <b>694 年</b> （向くよウグイス藤原京）、 <b>持統天皇</b> （天智天皇の皇女、夫は天武天皇）は <b>藤原京</b> （＝新益京・橿原市高殿町）に遷都。唐の長安などを参考にした宮城は大垣に囲まれ、礎石建ち瓦葺きの殿舎が立ち並ぶわが国初の本格的な都城であった。 701 年、 <b>大宝律令制定(文武天皇＝草壁皇子の子)</b> 。	36 165
<b>◆奈良時代</b>		
<b>平城京遷都</b>	710 年 3 月 10 日、 <b>元明天皇</b> が平城遷都を言明。平城宮には <b>約 1 万人</b> の官人が勤め、平城京（朱雀大路の西は <b>右京</b> と呼ばれた）に花開いた文化は	36
<b>藤原京⇒平城京</b>	<b>天平文化</b> と呼ばれる。『古事記』『日本書紀』も編纂され、『古事記』の編者 <b>太安万侶</b> は 1979 年、奈良市此瀬町で墓誌が発見された。	37 89




項目	解説	公式テキスト頁
<b>松林苑</b>	平城宮の北には唐・長安を模した松林苑と呼ばれる広大な宮苑があった。	36
<b>南都六宗</b>	華嚴・三論・法相・成実・俱舎・律宗をいう。(けさほじくりと覚える)	
<b>藤原氏の時代</b>	平城京遷都を主導したとみられる <b>藤原不比等</b> は、首皇子(後の <b>聖武天皇</b> 、 <b>伯母は元正天皇</b> )に娘の <b>安宿媛</b> (後の <b>光明皇后</b> )を嫁がせ、藤原四子(武智麻呂、 <b>房前</b> 、 <b>宇合</b> 、 <b>麻呂</b> )を政界に送った。	38
<b>長屋王の変</b>	729年、藤原四子は、 <b>長屋王</b> (天武天皇の孫)に謀反の罪を着せ自殺に追い込む。しかし737年、四子は天然痘で死亡し、藤原氏の画策は挫折。	38
<b>藤原広嗣の乱</b>	740年、吉備真備・玄昉の政府からの排除を求め宇合の息子・広嗣が反乱。乱後聖武天皇(元正天皇の甥)は <b>恭仁京</b> へ遷都。仏の教えで国や王権を守り	38
<b>大仏の造立</b>	発展させるため、 <b>紫香楽宮</b> で大仏造立を発願(743年)、 <b>752年</b> 、 <b>開眼法要</b> 。	
<b>橘奈良麻呂の乱</b>	757年、橘諸兄(=光明皇后の異父兄。藤原四子の死後政権を執った)の失脚後、奈良麻呂(諸兄の息子)が反乱。藤原仲麻呂が鎮圧した。仲麻呂は、大炊王(= <b>舍人親王</b> の子)を淳仁天皇として擁立。	39
<b>恵美押勝の乱</b>	764年、孝謙上皇(聖武天皇の皇女)の寵愛を外された <b>藤原仲麻呂</b> (恵美押勝)が反乱、敗死(764泣き虫押勝)。孝謙上皇は <b>称徳天皇</b> として重祚。	39
<b>道鏡の重用</b>	称徳天皇の病を癒した僧・道鏡は重用され、法王(天皇と同待遇)に登った。その後道鏡は、宇佐八幡宮神託事件で下野に左遷された。	40
<b>◆平安時代</b>		
<b>平安遷都</b>	784年、長岡京への遷都後、794年、桓武天皇は平安遷都。	
<b>薬子の変</b>	810年、讓位した平城上皇が謀反(平城京への再遷都を宣言)。藤原仲成と妹の薬子が補佐。鎮圧され嵯峨天皇(上皇の弟)の権力は安定。	41
<b>平重衡の南都(奈良)焼討ち</b>	<b>平城上皇</b> は平城宮で亡くなり、 <b>楊梅陵</b> (奈良市佐紀町)に葬られた。	42
<b>初瀬詣で</b>	1180年(治承4年)平重衡は東大寺・興福寺( <b>反平家</b> の拠点)を攻撃。重衡軍の放った火矢で大仏が焼け落ちる。 <b>法華堂</b> 等一部堂宇は戦火から逃れる。	43
<b>西行法師</b>	<b>長谷寺</b> には平安貴族の女性が多く参拝し、『源氏物語』第22帖にも登場。歌人の西行は平安時代末期に吉野山の奥に庵を結んで桜を愛でた。頼朝に追われた義経は吉野山で <b>静御前</b> と別れることになる。『吾妻鏡』	225
<b>◆中世</b>		
<b>南都の復興</b>	頼朝の援助を受け戦禍の南都が復興していく。法然の高弟・ <b>重源</b> (造東大寺勸進職)は東大寺再興に挺身。	43
<b>衆徒・国民</b>	頼朝は奈良には守護を置かず、興福寺が事実上の守護職。同寺は守護の軍隊を衆徒( <b>興福寺の僧兵:春日社の神木を担ぎ出して強訴</b> )、国民(春日大社の神人)として掌握する。	43
<b>後醍醐天皇と建武の新政</b>	後醍醐天皇は天皇親政を志し、 <b>建武</b> の新政を成就。まもなく足利尊氏の離反により吉野入りし、南朝を樹立したが失意のうちに没する。	43
<b>(鎌倉末期～南北朝時代)</b>	<b>楠木正行</b> は如意輪寺の本堂の扉に辞世の句を刻んで出陣していった。吉野で後醍醐天皇が一時留まった所が <b>實名生皇居跡</b> (五條市西吉野町)。	219
		224

項目	解説	公式ページ
◆争乱の時代		
<b>松永久秀</b> (1510~1577)	久秀は信貴山城（県内最大規模の中世城郭・平群町）、多聞(山)城（近代城郭の先駆・奈良市）を築いた。信長入京の際降伏したが、のち叛いて敗死。1567年、東大寺再び炎上。大和の守護に任じられた筒井順慶が郡山城築城。	44
<b>猿楽能</b>	観世：結崎座の観阿弥・世阿弥父子が完成。 （大和四座＝他に金春：円満井座、宝生：外山座、 <b>金剛：坂戸座</b> ）。 （現在毎年5月に興福寺境内で行われる能は <b>薪御能</b> と呼ばれている）	44
<b>侘び茶</b>	称名寺で禅を学んだ <b>村田珠光</b> が「侘び茶」の方式を創始（千利休が完成）。	44
◆近世		
<b>豊臣秀吉</b>	1594年、秀吉は現在の吉水神社である吉水院を本陣に花見会を開く。	212
<b>豊臣秀長</b>	秀吉は筒井定次を伊賀上野に転封、弟の秀長（ <b>大和大納言</b> ）が郡山城へ。	44/119
<b>織田信雄</b>	信長の次男。1615年、織田氏松山藩（宇陀市大宇陀区）の初代藩主となる。 「織田氏松山藩」は、丹波への国替えまで4代続いた。	344
江戸時代の諸藩	元禄期には郡山、高取、小泉（石州流の茶で著名）、新庄、柳生（新陰流の剣で著名、 <b>戒重</b> （後に芝村）、柳本の7藩あったが、郡山以外は小藩。郡山藩は江戸中期以降は柳沢家6代が藩主（初代藩主は <b>柳沢吉里</b> ）。 「 <b>三輪藩というのは存在せず</b> 」が出題された。	
奈良奉行(所)	大和一国を支配したのは <b>奈良奉行所</b> （ <b>奈良女子大の場所</b> ）。奈良奉行の <b>川路聖謨</b> は多くの桜や楓を植えて奈良の美観を図った。（植桜楓之碑）	45
商品流通	流通拠点・ <b>今井町</b> は「大和の金は今井に七分」とまでいわれた。 公慶らの尽力で大仏殿が再建され、大和は観光地として栄えた。	45/293
民衆の力の高まり	1863年8月17日天誅組の変が起こり吉村黄太郎らが <b>五條</b> 代官所を襲撃し鈴木源内を殺害。	46/223
◆近代～現代		
大和から奈良へ	1868年、軍事参謀・鳥丸光徳が大和鎮台を奈良に設置。翌年には最初の奈良県（初代知事・春日仲襄）を設置。1870年、 <b>五條県</b> （宇智・吉野郡と河内・紀伊国の一部）を設置。その後1876年、 <b>堺県</b> へ併合、さらに <b>大阪府</b> へ併合ののち、今村謹三らの尽力で1887年、奈良県が再設置（初代知事・ <b>税所篤</b> ＝最初は税所と覚える）× <b>京都府に含まれたことはなかった</b> 。	46
<b>廃仏毀釈</b>	<b>内山永久寺</b> （廃仏毀釈で廃寺になる）境内にあった鎮守社の拝殿が石上神宮に移設され国宝の出雲建雄神社拝殿となっており、その様子を物語る。	131
奈良の文化観光	1880年、奈良公園が開設（ <b>開設時は興福寺境内～猿沢池</b> ）され、観光都市・奈良が成立。	47
その他	1884年からフェノロサ・ <b>岡倉天心</b> が大和を調査した際、救世観音を開扉。 1946年、第1回正倉院展開催。 1949年の <b>法隆寺金堂火災</b> を機に、翌年、文化財保護法が成立。 1988年、奈良公園一帯で、 <b>なら・シルクロード博</b> 開催。 1967年に薬師寺管主となった <b>高田好胤</b> は写経を通じ伽藍復興に努めた。 1969年、近鉄奈良駅の地下化により <b>油阪駅</b> が廃止となった。	48



## 4. 遺跡 (P253～259) ・古墳 ・史跡

項目	解説	公式テキスト頁
◆旧石器・縄文・ 弥生時代の遺跡	奈良県内には、文化財保護法による周知の遺跡は約 <b>12,000</b> か所ある。	30
縄文時代		
おおこ <b>大川遺跡</b>	山添村。「大川式」という縄文早期前半の押型文土器 <small>おしがたもん</small> で知られる。	254
みや だいら <b>宮の平遺跡</b>	川上村。西日本で初めて、環状のストーンサークル <small>はいせきさいしいこう</small> (配石祭祀遺構) が見つかった。	258
弥生時代		
からこ <b>唐古・鍵遺跡</b> (田原本町)	国内最大級、弥生前期～古墳時代前期まで約 600 年間続いた集落。 銅鐸の鋳型も発見 (=銅鐸の製造技術を保持)。楼閣 <small>ろうかくかいが</small> 絵画の建物が復元。	31 256
◆古墳時代の 陵墓・古墳		
奈良市・大和高原		
さまたたなみ <b>佐紀盾列古墳群</b>	全国屈指の大古墳群で、大型前方後円墳 7 基を含む計 50 基が分布。 宮内庁管理の「 <b>陵墓・陵墓参考地</b> 」とされ、全体像は不詳だが、2007 年 9 月、宮内庁は群内の神功皇后 (仲哀天皇の妻) 陵 (五社神古墳=この古墳群中最大) に対する立ち入り調査を認めた。	87
		
へいげい <b>平城(天皇)陵</b>	平城宮建設で前方部が削平されて円墳のようにになっている。	42
他の出題例	<b>開化陵(奈良市)</b> <b>景行陵(天理市) は佐紀盾列古墳群ではない</b> という問題が出題された。	
いわのひめりょう <b>磐之媛命陵</b> (ヒシアゲ古墳)	磐之媛命は仁徳天皇の皇后。『日本書紀』には、仁徳天皇が八田若郎女 <small>やたのわきいらつめ</small> を寵愛したため磐之媛命の怒りが解けず、仁徳天皇陵が堺市、皇后陵が <b>奈良市</b> にあるとする。	84
すいにんりょう <b>垂仁陵</b>	近鉄橿原線・あまがつじ 尼ヶ辻駅付近からよく見える。濠を備えた精美な前方後円墳。濠の中に <b>垂仁天皇の使者として、非時香菓(柑橘系の果物)を求めて常世国に赴いた田道間守の塚</b> (大きな墓に付属した小墓) がある。	84
<b>富雄丸山古墳</b>	2019 年の発掘調査で直径 109m の巨大円墳 (日本最大) であると確認。 国内最大の蛇行剣と過去に類のない盾形銅鏡が出土	89
おはりだのやすまろの <b>小治田安万侶墓</b>	小治田安万侶は、蘇我氏の同族で、文武、元明、元正、聖武天皇に仕えた人物。都祁山 <small>つげ</small> の南斜面にある奈良時代の火葬墓。	90
<b>石のカラト古墳</b>	奈良県と京都府の府県境に位置する上円下方墳。横口式石槨 <small>よこぐちしきせつかく</small> を設け版築 <small>はんちく</small> 工法により築かれた終末期古墳。	88


項目	解	説	公式テキスト頁
<b>黄金塚陵墓</b> <b>参考地</b>	奈良市の帯解寺の近く <small>とねりしんのう</small> にあり、 <b>舎人親王の墓*</b> とも伝えられる陵墓参考地の形で出題 → (*2009年の調査で出土した土器から7世紀中ごろの古墳とされ、現在は舎人親王説は否定的である)		86
<b>生駒・斑鳩</b> <b>藤ノ木古墳</b>	斑鳩町。法隆寺の西約350m。未盗掘の石棺から東アジアでも超一級の金銅製馬具セットが出土。被葬者は特定されていない ( <b>2体の人骨</b> あり)。		107 108
<b>磯城</b> <b>島の山古墳</b>	川西町 <small>しゅうごう</small> 。周濠 <small>いしくしろ</small> の中に浮かんだ島のような大型の前方後円墳。鍬型石、車輪石、石釧 <small>いしくしろ</small> (石製の腕輪) など130点余りの石製品が出土。被葬者は巫女か。		121
<b>天理・桜井</b> <b>崇神陵</b> ( <b>行燈山古墳</b> )	天理市。巨大な前方後円墳で、周囲の壮大な濠 <small>ほり</small> は、幕末に柳本藩が灌漑用水に利用するため、大修理を加えた。4世紀中頃築造。		134
<b>景行陵</b> ( <b>渋谷向山古墳</b> )	天理市。前期古墳中で最大。4世紀中頃築造。		135
<b>橿山古墳</b> <b>黒塚古墳</b>	天理市。崇神陵の濠 <small>そうほうちゅうえんがん</small> の東にある双方中円墳 (円丘の両側に方形の突出部)。 天理市。 <b>33面の三角縁神獣鏡</b> が元の位置を保った状態で発掘された。		139 139
<b>纏向遺跡</b>	桜井市。3～4世紀の広大な遺跡で、 <b>三輪山の北西。規則性のある建物</b> があるととして大和政権成立時の宮都、邪馬台国説も。		256
<b>纏向古墳群</b> <b>箸墓古墳</b> ( <b>大市墓</b> )	桜井市。纏向遺跡内の <b>纏向石塚</b> 、纏向矢塚、勝山、東田大塚の4古墳。 桜井市・纏向遺跡内。卑弥呼の墓とも。現在は <b>倭迹迹日百襲姫命 (大物主に嫁ぎ悲しい死)</b> の大市墓として宮内庁が管理。『日本書紀』には「昼は人が造り、夜は神が造った」「大坂山の石を運び、山から墓に至るまで人民が連なって手渡した」。		135
<b>茶臼山古墳</b>	鳥見山の北麓に築かれ、石室から大量の朱 (=水銀) が検出された柄鏡形の前方後円墳。		144
<b>天王山古墳</b>	音羽山から北西に延びる尾根先に築かれ、江戸時代には <b>崇峻天皇陵</b> ともされた大型方墳。		145
<b>艸墓古墳</b>	阿部丘陵にあり、 <b>亀山</b> 石製の大きな家形石棺が石室の内部に残る方墳。		142
			
<b>橿原・明日香</b> <b>天武陵・持統陵</b> ( <b>野口王墓古墳</b> )	明日香村。『 <b>阿不幾乃山陵記</b> 』の記述により、両天皇を合葬した <b>檜隈大内陵</b> に治定。持統天皇は天皇として初めて火葬され、ここに合葬された。		177
<b>石舞台古墳</b>	明日香村。 <b>蘇我馬子</b> の <b>桃原墓</b> 説が有力。西側に、 <b>島庄遺跡</b> がある。		180





項目	解説	公式ページ
<b>高松塚古墳</b>	明日香村。江戸時代には文武天皇陵とされた。石槨内部の天井と側面に彩色の壁画が描かれている（ <b>獣頭人身像は描かれておらず、四神:朱雀もない</b> ）。壁画発見から令和4年（2022）で <b>50周年</b> 。	180
<b>中尾山古墳</b>	明日香村。墳丘は3段築成の <b>八角形墳</b> で、周囲は敷石で囲まれていた。文武天皇の檜隈安古陵の可能性がいられている（八角形墳は天皇陵に多い。「八隅知之＝国土の隅々までも治めるという意味」に由来するとも）。	181
<b>マルコ山古墳</b>	明日香村。墳丘が2段築成の六角形墳。石槨内は <b>漆喰塗り</b> （壁画はない）。	182
<b>岩屋山古墳</b>	明日香村。石室は <b>精巧な切石積石室</b> で「岩屋山式横穴式石室」の標式（標準）遺構。飛鳥時代の大王または有力氏族の墳墓と考えられる。	183
<b>牽牛子塚古墳</b>	明日香村。令和4年（2022）に幾何学的な墳丘（八角形墳）が復元された。被葬者は斉明天皇・間人皇女が有力。	183
<b>東明神古墳</b>	高取町。八角墳で、羨道を持たない横口式（冢形）石槨。 <b>草壁皇子</b> （天武と持統の皇子）の墓と推定されている。	184
<b>葛城・五條・吉野</b>		
<b>ナガレ山古墳</b>	河合町。馬見丘陵公園内に東半分が復原。円筒埴輪列や葺石などが出土。	201
<b>乙女山古墳</b>	河合町。馬見丘陵公園内。全長130mの帆立貝式（県内最大）前方後円墳。	202
<b>築山古墳</b>	広陵町。 <b>馬見古墳群</b> 中で最大の前方後円墳。4世紀末の葛城地域の王墓。2005年、周濠から船の波切板とみられる木製品が出土。	203
<b>鳥谷口古墳</b>	葛城市。二上山雄岳の東麓。被葬者は、 <b>大津皇子</b> か。	204
<b>水泥古墳</b>	御所市。巨勢谷地域の古墳で、巨勢氏の墳墓とされる。水泥北古墳（塚穴古墳）と <b>水泥南古墳</b> （石棺に六弁の <b>蓮華文</b> ）の2基。	206
<b>宮山古墳</b>	御所市。 <b>室大墓</b> とも。全長約240mで、葛城地方最大の前方後円墳。	206/33
<b>岡峯古墳</b>	下市町。玄室の奥壁に石棚を造り付けている。紀氏との関係が注目される	227
<b>その他・群集墳</b>	新沢千塚古墳群・龍王山古墳群・巨勢山古墳群等の数百の小規模古墳群。 <b>纏向古墳群は群集墳ではない</b> という問題が出題された。	33
<b>◆史跡</b>	史跡関連をまとめて紹介する。	
<b>平城宮跡</b>	周りを取り巻く築地大垣の南正面には <b>朱雀門</b> （正門）。平城宮跡の復原大極殿の扁額に書かれた文字は <b>長屋王</b> の筆跡から採用（集字という）。 <b>元明天皇（710年平城京遷都）</b> ～桓武天皇（784年 <b>長岡京遷都</b> ）までの首都（聖武天皇による <b>恭仁京</b> 等への一時遷都あり）。メインストリートである朱雀大路は <b>羅城門</b> （大和郡山市）から北にのびていた。	76
<b>東大寺旧境内</b>	<b>平城京の外京には含まれない。</b>	36
<b>頭塔</b>	奈良市。 <b>玄昉</b> の首塚とも（『七大寺巡礼私記』）。お水取りの創始者・実忠が767年に建立したとされる（『東大寺要録』）。石仏多数。	38 36 36 78

項目	解説	公式テキスト頁
<b>北山十八間戸</b> <b>滝寺磨崖仏</b>	奈良市。鎌倉中期、忍性が建立したと伝える難病の患者救済施設。 奈良市。奈良県立「矢田自然公園園子の森」の近くにある、わが国でも最も古い磨崖仏の一つ。	79 79
<b>滝坂道</b>	奈良市。柳生街道の一部。沿道に朝日観音、夕日観音、首切地蔵、寝仏等。	82
<b>多聞城跡</b>	奈良市。大和国に勢力を張った松永久秀が佐保川の北側に築いた城（跡）。	82
<b>下ツ道</b>	藤原京と平城京とを結ぶ道で、その北端部が平城京の朱雀大路として拡幅された古道。	36
<b>吉備池廃寺</b>	桜井市。聖徳太子の熊凝精舎（大和郡山市の額安寺）→舒明天皇の百濟大寺（桜井市の吉備池廃寺と推定）→高市大寺（大官大寺と改称）→大安寺（奈良）と移る。	132
<b>山田寺跡</b>	桜井市。入鹿の従兄弟・蘇我倉山田石川麻呂が造営着手。仏頭は興福寺僧が略奪。法隆寺より古い回廊遺構が出土（飛鳥資料館に復元展示）。	132
<b>益田岩船</b>	橿原市の貝吹山に連なる山の上にある、飛鳥地方で最大の石像物。目的は、空海の石碑を据えた台座説、古墳の石槨説など諸説あり。	166
<b>豊浦寺跡</b> <b>(向原寺)</b>	明日香村。推古天皇の豊浦宮地を蘇我氏が譲り受けて日本初の尼寺に。下層から豊浦宮の掘立柱建物跡が見つかる。	167
<b>水落遺跡</b>	明日香村。中大兄皇子（のち天智天皇）の漏刻(水時計)台跡。	167
<b>入鹿の首塚</b>	明日香村。飛鳥寺西方の石の五輪塔。大化の改新(乙巳の変)で切られた蘇我入鹿の首が飛んできたのでここに葬ったとされる(中世の造立)。	168
<b>猿石</b>	明日香村。吉備姫王の墓域内(敏明天皇陵付近から遷された)4体の石像。	171
<b>檜隈寺跡</b>	明日香村。渡来系氏族・東漢氏の氏寺。現・於美阿志神社境内にある。	172
<b>川原寺跡</b>	明日香村。現在金堂跡に弘福寺本堂が建つ。裏山から多くの埴仏が出土。	173
<b>亀石</b>	明日香村。謎の石像物。亀に似た形。西を向くと洪水を起こすとの伝承。	173
<b>南淵請安墓</b>	明日香村南淵にあり、明神塚と呼ばれていた墳墓。	
<b>キトラ古墳</b>	キトラ古墳で保存のため四神のうち、最初に剥ぎ取られた石室東壁の絵柄は青龍である。石室天井中央には天文図が描かれている。	181
<b>飛鳥池遺跡</b>	飛鳥坐神社の南方にあり、富本銭などを生産していた工房の遺跡。	168
<b>坂田寺跡</b>	鞍作氏の氏寺であり、のちに尼寺ともなった寺院の跡。	174
<b>高取城跡</b>	高取町。南北朝～江戸期にかけて、越智、本多、植村各氏の居城。日本百名城、日本三大山城の1つ。国史跡。	175
<b>秋津遺跡</b>	御所市の宮山古墳(室大墓)の北方に広がり、古墳時代の堅固な板塀や掘立柱建築群が発見された遺跡。	
<b>天誅組本陣跡</b>	五條市。尊皇攘夷派の吉村寅太郎(土佐藩出身)らは幕府の五條代官所(現在の市役所の所在地)を襲撃、東の桜井寺に本陣(天誅組本陣跡の標石あり)。事件後、代官所は市役所の西約400mに再建(長屋門がある)。	223
<b>森野旧薬園</b>	宇陀市。森野藤助の日本最古の私設薬園を国史跡に指定。	155
<b>比曾寺跡</b>	大淀町。聖徳太子建立の由緒。現在は世尊寺が建つ。	225

## 5. 寺 社


項 目	解 説	公式テキスト頁
◆奈良市・大和高原		
寺院		
東大寺	<p>本尊は盧舎那仏（大仏）。<b>聖武天皇</b>が創建（前身の金鐘寺は聖武天皇の皇太子・基親王の菩提を弔う寺）、<b>造東大寺司</b>が造営。<b>行基</b>が勸進に尽力し寺務は良弁と弟子の実忠が担った。<b>平重衡</b>の南都焼討ちなどで消失した伽藍を<b>重源</b>（法然の高弟）が源頼朝の協力を受け再建。中世、三好・松永の兵乱により再び焼け落ちた大仏殿などを元禄期に<b>公慶</b>が勸進で再建（創建以来の建物は、<b>法華堂（三月堂）</b>・転害門・経庫・正倉院のみ）。</p> <p>華嚴宗（大本山）。南大門に掲げられている扁額には「<b>大華嚴寺</b>」の寺号。</p>	38 43 46
興福寺	<p>藤原鎌足の病氣平癒のため妻・鏡王女が山背国に創建した山階寺が起源。飛鳥に移って麩坂寺と称し、平城遷都に伴い藤原不比等が現在地に移転。以来藤原氏の氏寺。大和国領主として僧兵を擁し盛大を極めた。<b>法相宗</b>の大本山。最古の建物は<b>北円堂</b>で無著・世親像が安置される。<b>南円堂</b>は西国三十三所観音霊場・第九番札所。<b>中金堂</b>は平成30年(2018)再建落慶。門跡寺院であった<b>大乗院</b>の庭園（善阿弥・作庭）が奈良ホテル近くに復元。</p>	59 77
		
誕生寺	奈良町にある <b>中将姫</b> ゆかりの寺（誕生の地と言われる）	62
般若寺	飛鳥時代に高句麗僧の慧灌が創建。鎌倉時代に叡尊と忍性が再興。国宝の楼門と重文十三重石塔が残る。コスモス、ヤマブキ、アジサイが有名。	56
新薬師寺	<b>聖武天皇の眼病平癒祈願のため光明皇后が創建</b> 。本尊の薬師如来像（薬壺を持つ）、日本最古の十二神将像などで知られる。2008年10月、奈良教育大構内で金堂跡と見られる遺跡を発掘。	64
円照寺	法華寺、中宮寺とともに、大和の三門跡尼寺。山村御殿とも呼ばれる。	66
西大寺	<b>孝謙上皇(称徳天皇)</b> の勅願で創建。平安期、多くの堂宇が消失したが <b>叡尊</b> （興正菩薩）が再興。4月と10月の大茶盛式で知られる。奥の院(体性院)には <b>叡尊の墓</b> （五輪塔）がある。	69
喜光寺	行基の創建と伝えられ、本堂は「 <b>試みの大仏殿</b> 」と呼ばれる。	70
(菅原寺)	行基はここで没し、生駒の竹林寺に葬られた。盆梅とハスの名所。	
大安寺	聖徳太子が建立した熊凝精舎が起源と伝える。のち移転ごとに百濟大寺→高市大寺（=大官大寺）→大安寺（平城遷都後）と改称。 <b>豊浦寺は前身寺院ではない</b> との形で出題あり。	71
薬師寺	天武天皇の発願以後、持統・文武朝を通じて藤原京に造営（= <b>本薬師寺</b> ）されたが、平城遷都後現在地に。三重塔（東塔）、薬師三尊像（金堂の本尊）、 <b>聖観音菩薩像</b> 、 <b>吉祥天画像</b> など白鳳・天平時代の優れた仏教美術を所蔵。H21年(2009)～R3年(2021)東塔を全面解体修理。南に寺院の鎮守社である <b>休ヶ丘八幡宮</b> がある。	72


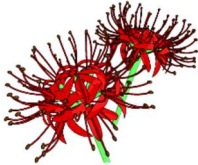
項目	解説	公式テキスト頁
<p><b>唐招提寺</b></p> 	<p>もとは<b>新田部親王</b>の邸宅。唐僧・鑑真が戒律道場として創建。地震で多くの堂宇が倒壊したが、桂昌院<b>(徳川綱吉の母)</b>の庇護で復興。金堂は代表的な天平建築で天平後期の仏像を安置。講堂は平城宮の東朝集殿を移建。御影堂（興福寺旧一乗院門跡の宸殿を移築したもの）には国宝の鑑真和上坐像と東山魁夷の障壁画があり、6月6日の開山忌（鑑真の命日）と前後の3日間に一般公開。鑑真和上坐像の模像（レプリカ）は常時公開中。</p>	73
<p><b>芳徳禅寺</b> <b>(芳徳寺)</b></p>	<p>柳生の里にあり、<b>柳生宗矩</b>が父・柳生石舟斎宗厳（柳生新陰流の創始者）の菩提を弔うため、<b>沢庵</b>禅師を開祖として創建。柳生家の菩提寺。新陰流に関する史料を含む多くの寺宝を展示。</p>	75
<p><b>その他の寺院</b></p>	<p><b>土輪院</b>（花崗岩の石仏龕＝厨子がある）</p>	62
	<p><b>海龍王寺</b>（＝隅寺。唐より帰国した玄昉が渡航中に唱えた経典の名をもって寺名がつけられた。国宝・五重小塔がある。雪柳の寺。）</p>	68
	<p><b>帯解寺</b>（本尊は木造地藏菩薩半跏像＝腹帯地藏。将軍家・皇室の安産祈願の寺）</p>	72
<p><b>神社</b> <b>春日大社</b></p>	<p>神護景雲2年(768)、称徳天皇の勅命で藤原永手が現在の地に創建。以後長くその氏神として尊崇された。興福寺（藤原氏の氏寺）との縁も深い。冬（節分）と夏（中元）の万灯籠、春日若宮おん祭り（12/15～18）で知られる。国宝の本殿は<b>4つの棟</b>が並ぶ春日造で、<b>1863(文久3)年</b>の建築。本殿に続き、摂社<b>若宮神社</b>では令和4年(2022)に式年造替が行われた。<b>奈良国立博物館の敷地</b>内にかつてあった東西の塔跡が残る。</p>	52
<p><b>手向山八幡宮</b> <b>漢国神社</b></p>	<p>聖武天皇が大仏造営の際、宇佐八幡宮を東大寺大仏守護神として勧請。境内には、中国から渡来し日本で初めて<b>饅頭</b>を作った林浄因（饅頭の祖）を祀る林神社がある。</p>	52
<p><b>奈良豆比古神社</b></p>	<p>10/8の翁舞（国指定重要無形民俗文化財）と、楠の巨樹（県指定天然記念物）。</p>	54
<p><b>天乃石立神社</b></p>	<p>柳生にあり、社殿がなく扉の形をした花崗岩を御神体とする。</p>	55
<p><b>◆生駒・斑鳩</b></p>		
<p><b>寺院</b> <b>宝山寺</b> <b>(生駒聖天)</b></p>	<p>生駒山腹。役行者が般若心経を納め、若年の空海が修業したと伝える。江戸期に<b>湛海</b>が入山し、大聖無動寺と号したのが始まり。境内に般若窟。聖天堂の<b>歓喜天</b>像が商売繁盛のご利益があるとされ「生駒の聖天さん」として親しまれる。客殿の獅子閣は、明治時代に建てられた洋風2階建ての木造建築。</p>	99
<p><b>長弓寺</b></p>	<p>富雄の豪族・真弓長弓が、子の長麻呂を連れ聖武天皇の鳥狩りのお供をした際、長麻呂の流れ矢で落命。天皇はその悲運を嘆き行基に命じて創建したと伝える。周辺に長弓の墓（真弓塚）がある。13世紀建築の本堂は国宝。</p>	99
<p><b>朝護孫子寺</b></p>	<p>物部守屋討伐に向かう聖徳太子が山上で<b>毘沙門天</b>を感得し、勝利を得たことから、<b>毘沙門天</b>（本尊）を祀り、「信貴山」と号したと伝える。平安時代末期の「信貴山縁起絵巻」は国宝。</p>	101

項目	解 説	公式テキスト頁
<b>法隆寺</b> <b>(斑鳩寺、</b> <b>法隆学問寺)</b>	<b>用明天皇</b> の遺志をつぎ聖徳太子と <b>推古天皇</b> が建立。670年に焼失し8世紀初めまでに漸次再建。世界最古の木造建築物。飛鳥様式の金堂・五重塔（西院）と天平様式の夢殿（東院）に分れる。 <b>雲斗・雲肘木</b> 。金堂の <b>釈迦三尊</b> ・薬師如来・四天王、夢殿の救世観音、百済観音などの仏像、玉虫厨子・橋夫人厨子など各時代にわたる遺宝多数。1949年金堂の内部・壁画は失火で損壊したが復元。1993年、わが国初の世界文化遺産。	102
<b>中宮寺</b> <b>(斑鳩御所)</b>	(皇后の宮室を寺としたことから中宮寺) 法隆寺夢殿の東にある <b>尼寺</b> 。聖徳太子が母のために建立したと伝え、天文(1532~1555)年間に再興、皇女入室の尼寺となった。気品の漂う菩薩半跏像、天寿国曼荼羅繡帳(残欠。現在は奈良国立博物館に寄託)などを所蔵。	103
<b>法輪寺</b> <b>(三井寺)</b>	聖徳太子の病氣平癒を祈ってその子山背大兄王らが建立したと伝える。法隆寺の西院伽藍と同じく、東に金堂、西に塔があった。三重塔は飛鳥様式の遺構で、1944年落雷を受け炎上。1975年幸田文らの尽力で再建。薬師如来坐像、虚空蔵菩薩立像は飛鳥時代後期の木彫。	104
<b>法起寺</b>	岡本寺(岡本尼寺)、池後寺(池後尼寺)とも。聖徳太子が法華経を講じた岡本宮の跡地に、太子の遺言により、子息・山背大兄王が寺を建てたのが始まりとされる。わが国最古の三重塔が残る。世界遺産(法隆寺地域の仏教建造物)に指定されている。	104
<b>その他の寺院</b>	<b>竹林寺</b> (喜光寺で没した行基の墓と、叡尊の弟子・忍性の墓がある。銘文のある行基の骨蔵器の断片が出土)。	100
<b>神社</b> <b>往馬大社</b>	ご神体は生駒山。歴代天皇の大嘗祭とも関わりの深い <b>火を司る神様</b> 。 <b>天皇に「ひきり木」を献上</b> 。体育の日の前日に行われる例祭(火神祭)は、壮大な火祭り。	96
<b>龍田大社</b>	三郷町立野南。天地自然を支える <b>風を司る神</b> 。7月第1日曜日には、暴風洪水を防ぎ五穀豊穰を祈る <b>風鎮大祭</b> 。(⇨河合町の広瀬神社は水の神)	98
<b>◆大和郡山・磯城</b>		
<b>寺院</b>		
<b>矢田寺</b> <b>(金剛山寺)</b>	天武天皇の勅願により建立。当初は十一面観音が本尊。平安期に満米上人が <b>地藏菩薩</b> (矢田の地藏さん)を本尊に。 <b>あじさい寺</b> で知られる。	114
<b>松尾寺</b>	舎人親王が『日本書紀』完成の祈願と42歳の厄除けのため建立したとされる。厄除け観音の寺(本尊は木造千手千眼観音立像)・バラの寺。	115
<b>慈光院</b>	小泉藩主・片桐貞昌(=片桐石州 石州流茶道の祖)が父の菩提を弔うため建立。奈良盆地を借景とする枯山水の借景庭園(大和三名園)。	116
<b>その他の寺院</b>	<b>春岳院</b> (豊臣秀吉の弟・秀長の位牌を託された位牌菩提寺)	114
	<b>東明寺</b> ( <b>舎人親王</b> ・天武天皇の皇子により創建)	115
	<b>秦楽寺</b> (秦氏の氏寺。空海はここで「三教指帰」を著したと伝える)	118

項目	解 説	公式テキスト頁
神社	<p>賣太神社（稗田環濠集落・稗田猿女君の邸跡地に建ち、祭神は稗田阿礼）。  <small>やくおんはちまんじんじや</small>  <b>薬園八幡神社</b>（郡山城外堀に接し奈良時代の梨原宮跡に建つといわれる）。</p>	110 110
◆天理・桜井		
寺院		
長岳寺 <small>ちやうがくじ</small>	空海が創建。大和神社神宮寺。関西花の寺19番札所。地獄絵、躑躅。	128
(釜口大師)		
聖林寺 <small>しやうりんじ</small>	本尊は石造延命地藏像。十一面観音菩薩立像（木心乾漆）は天平彫刻の傑作で国宝（もとは大御輪寺の仏像だが廃寺により移転）。	130
神社		
在原神社 <small>ありはら</small>	在原業平と父・阿保親王（平城天皇の5男）を祀る。境内には謡曲の『井筒』に謡い込まれた夫婦竹がある。	122
石上神宮 <small>いそのかみ</small>	この地を拠点とする物部氏、後裔の石上氏の氏社で、大和朝廷の武器庫。	124
(布留社・石上社)	祭神・布都御魂大神は、神武東征ゆかりの神剣。国宝・七支刀（ななつさやのたち）は百濟から献納され、銘文は『日本書紀』と一致。	124
大和神社 <small>おおやまと</small>	延喜式神名帳にも記載されている古社。戦艦大和はこの神社の御魂を祀っていた。春を告げる「ちゃんちゃん祭り」（4/1）がある。	124
大神神社 <small>おおみわ</small>	大和国の「一の宮」。ご神体は三輪山で本殿はない。拝殿は徳川家綱が寛文4年（1664年）に再建。山中は浄域で巨石群や磐座などの祭祀遺跡が散在。拝殿奥正面に三輪鳥居。摂社（本社に付属した神社）に、酒造りの杜氏が参詣する活日神社、三輪山への登拝口で病氣平癒の神社である狭井神社。三輪郷は門前町・宿場町（初瀬、伊勢参詣）・市場町として栄えた。	125
(三輪明神)		
◆宇陀		
寺院		
戒長寺 <small>かいちやうじ</small>	用明天皇の勅願で聖徳太子建立、空海が伽藍を整えたと伝える。梵鐘は周囲に十二神将を鑄出（重文）。お葉つきイチョウは県指定天然記念物。	150
室生寺	役行者が開いたとも、周辺の龍穴神社の神宮寺として開かれたともいわれる。徳川綱吉の母・桂昌院が保護。女人高野に。金堂の木造釈迦如来立像は、近世までは薬師如来とされた。高さ約16mの五重塔は屋外の五重塔では日本最小。写真家の土門拳が愛した寺。	150
大野寺 <small>おおのじ</small>	宇陀川対岸の崖に大野寺石仏（弥勒磨崖仏）が刻まれている。興福寺の僧の発願により、笠置山の弥勒石仏を模して、宋の石工・伊行末が刻んだものといわれる。しだれ桜が有名。	151
青蓮寺 <small>せいれんじ</small>	宇陀市にある尼寺。16歳の中将姫が継母の讒言によって捨てられ、哀れに思った父の家臣に保護され、ここで草庵を結んだという。世阿弥の謡曲「雲雀山」の舞台で、中将姫の画像や彫像、曼陀羅図などが残る。本尊の法如尼坐像は姫19歳の姿だとされる。	152



項目	解 説	公式テキスト頁
神社		
		
<b>宇太水分神社</b> (宇陀市菟田野区古市場、春日造の本殿が国宝に指定)		148
<b>八咫鳥神社</b> (宇陀市)。八咫鳥は神武天皇を導いた三本足の鳥。境内には日本サッカーのモニュメントあり)		146
<b>龍穴神社</b> (室生川に臨んで鎮座する、祈雨・止雨の神社。猿沢池と采女に関わる伝説が残る。室生寺はこの神社の神宮寺とも)		147
<b>門僕神社</b> (10月の祭礼では、人身御供の名残である「頭甲」を供える。同日奉納の「曾爾の獅子舞」は県指定無形民俗文化財。境内の御葉付イチョウは県の天然記念物)		149
◆ <b>樺原・明日香</b>		
寺院		
<b>久米寺</b>	聖徳太子の弟・来目皇子の建立と伝える。『今昔物語』によれば飛行術を身につけた久米仙人が、女性の白いふくらはぎを見て神通力を失い墜落し、その後寺を建てた。練供養(久米レンゾ 5/3)、アジサイ名所。	161
<b>称念寺</b>	今井御坊と呼ばれ、令和4年に本堂修理を終えた。	162
<b>岡寺</b>	義淵僧正が <b>草壁皇子</b> の宮跡に建立。日本最大の塑像・如意輪観音坐像が本尊。義淵僧正坐像は国宝。西国三十三所第七番札所。シャクナゲ名所。	162
<b>飛鳥寺</b>	596(推古天皇4)年、 <b>蘇我馬子</b> が百済の職人に建立させ創建。	163
<b>(法興寺)</b>	日本初の本格的な寺院(現在は安居院)。本尊は飛鳥大仏( <b>釈迦如来</b> )。飛鳥寺式伽藍配置( <b>塔を中心に東・西・中の各金堂を配する</b> )。飛鳥四大寺の1つ(他は大官大寺、本薬師寺、川原寺)。のち平城京に移転し元興寺に。西門は <b>中ツ道</b> に面する。	163
<b>川原寺(跡)</b>	斉明天皇の宮跡に創建されたと見られ、裏山で多くの埴仏が出土。	173
<b>橘寺</b>	橘尼寺とも。聖徳太子誕生の寺と伝え、本尊は聖徳太子。境内には飛鳥石像物の1つである「 <b>三面石</b> 」が立つ。	163
<b>壺阪寺</b>	お里・沢市の「壺坂靈驗記」で知られる眼病平癒の寺。当初、越智氏が拠点、同氏没落後、本多氏・植村氏が庇護して寺勢回復。インドから運ばれた巨大な観音立像がある。西国三十三所第六番札所。	164
神社		
◆ <b>葛 城</b>		
寺院		
<b>達磨寺</b>	聖徳太子が飢えた男に衣服を与えると、それは達磨大師であったという「片岡飢人伝説」が残る。境内には飢人の墓と伝える古墳がある。	193
<b>當麻寺</b>	在地豪族・當麻氏の氏寺。東西の古塔(国宝)を有し、中将姫ゆかりの當麻曼荼羅(国宝・綴織曼荼羅図)と牡丹、4/14の聖衆来迎練供養会式(當麻レンゾ)で知られる。 <b>金堂</b> は南面するが、 <b>本堂</b> は東面して建つ。	195
<b>石光寺</b> (染寺)	天智天皇の時代、光を放つ3大石があり、これで弥勒菩薩を彫り役行者を開祖として建立。聖武天皇の時代、中将姫が境内の <b>井戸</b> (染の井)で <b>蓮糸を染め</b> 、當麻曼荼羅を織ったと伝える。1991年の調査で白鳳時代の石仏や、約200点の埴仏(仏の姿を浮彫したもの)が出土。牡丹、寒牡丹が見事。	196
その他の寺院	<b>吉祥草寺</b> (役行者生誕の地に創建。1/14の「茅原のトンド」で知られる)	197

項目	解説	公式テキスト頁
<p><b>神社</b> <b>一言主神社</b> (いちごんさん)</p>	<p>一言の願いであれば聞いてくれる神として信仰。『古事記』『日本書紀』は、雄略天皇が葛城山で狩りをした際、一言主大神が現れ、ともに狩りをしたとする。周辺の葛城古道の彼岸花と、晩秋に色づく「乳垂れイチョウ」(子供が授かり、母乳がよく出るとの伝承がある)で知られる。</p>	191
<p>その他の神社</p> 	<p><b>葛木坐火雷神社</b> (笛吹神社。フルート・尺八等の楽器を扱う人や、火の神として火を扱う人の崇敬が篤い。境内に日露戦争戦利品の大砲あり。)</p> <p><b>鴨都波神社</b> (鴨族ゆかりの神社。周囲は、県下有数の弥生式遺跡である鴨都波遺跡で、日本最初の水稲栽培地域とされる)</p>	190 190
<p>◆五條・吉野</p>		
<p><b>寺院</b> <b>栄山寺</b></p>	<p>五條市。<b>藤原武智麻呂</b>(不比等の長男)の創建と伝える。藤原南家(武智麻呂が祖)の氏寺。<b>国宝・八角堂はその子・仲麻呂が父母の追善のために建てた</b>(内部に装飾画があり天平時代の遺構で国宝)。</p> <p>国宝の梵鐘に刻まれた銘文は、小野道風の書と伝える。</p>	216
<p><b>金峯山寺</b></p>	<p>吉野山。役行者が開いた修験道の聖地で、理源大師・聖宝が入山して発展。高師直らの軍に焼かれた後、100年余り衰退の時代があるが、太閤の花見に際し復興。蔵王堂(本堂)・仁王門を中心に複数寺院で構成。金剛蔵王大権現を祀る本堂<b>蔵王堂</b>は、木造では大仏殿に次ぐ規模。7/7の「蛙とび」(蓮華会)で知られる。</p> <p>なお金峯山とは、吉野山から山上ヶ岳に至る山脈の総称。</p>	218
<p><b>如意輪寺</b></p>	<p>吉野山・浄土宗の寺。延喜年間(901~923)、日蔵道賢の創建と伝え、のち醍醐天皇の勅願寺、さらに墓所となった。天皇は「玉骨はたとひ南山(吉野の山)の苔に埋もるとも、魂魄は常に北闕(京都の御所)の天を望まんと思ふ」と遺言。</p> <p>本堂の扉には、四條畷に向かう南朝の武将・楠木正行(正成の子)の「帰らじとかねて思えば梓弓亡き数に入る名をぞとどむる」(今度の戦いでは生きて帰らぬ身であるので、亡き人の仲間入りをする名を残して出發します)という辞世の歌が刻まれている。</p>	219
<p><b>龍泉寺</b></p>	<p>大峯山登山口(天川村洞川)にある。役行者が泉を発見し、八大龍王尊を祀ったのに始まる。「大峯一の宿」と呼ばれる。</p>	222
<p>その他の寺院</p> 	<p><b>桜井寺</b>(五條市須恵。「天誅組本陣跡」の標石が立つ)</p> <p><b>金剛寺</b>(五條市。ボタンの寺。関西花の寺二十五ヶ所霊場の第23番札所)</p> <p><b>本善寺</b>(飯貝御坊・吉野町飯貝。蓮如の創建で大和真宗寺院の中核)</p> <p><b>願行寺</b>(下市御坊・下市町。蓮如が念仏道場を改築。真宗の布教基地)</p>	223 217 220 221



項目	解説	公式テキスト頁
<b>神社</b>		
<b>御霊神社</b>	五條市。光仁天皇を呪詛したとして皇后を廃された井上内親王と、同じく皇太子を廃された他戸親王が祭神。宇智（五條市）に幽閉され、急死した。	210
<b>吉水神社</b>	もとは金峯山寺の僧坊・吉水院。後醍醐天皇の行宮であり、太閤の花見の本陣にもなった。 <b>源義経</b> は静御前・弁慶らとここに逃れ、一時潜伏した。	212
<b>金峯神社</b>	吉野山最奥（奥千本入口）・最高峰（青根が峯）の古社で、吉野山の地主神を祀る。義経が身を潜めたという蹴抜塔（義経隠れ塔）が近くにある。	213
<b>荒神社</b>	野迫川村にある標高1260mの山頂に鎮座する火の神・かまどの神。	215
<b>その他の神社</b>	<b>吉野神宮</b> （祭神は <b>後醍醐天皇</b> （後村上天皇が刻んだ後醍醐天皇像がご神体）明治時代創建）	210
	<b>玉置神社</b> （玉置山上の修験道の行場、十津川郷の総鎮守。 <b>熊野三山</b> の奥の院。世界遺産に登録される。）	216
<b>◆その他</b>		
<b>西国 33 所観音 霊場札所</b>	奈良県には <b>4 か所</b> 。 6 番：壺阪寺 7 番：岡寺 8 番：長谷寺 9 番：南円堂（興福寺） 出題例①奈良には札所はいくつあるか。	
<b>三門跡尼寺</b>	②札所でない寺を選び出す。 ×長弓寺 ×東大寺二月堂 法華寺・ <b>円照寺</b> （山村御殿とも呼ばれる）・中宮寺 出題例 三門跡に該当しない寺を選び出す ×興福院	

## 6. 彫刻 (P264～283) ・ 建築 (P284～291) ・ 絵画

項目	解 説	公式テキスト頁
◆ 仏 像	県下に仏像は国宝だけでも約 70 件あるが、ここでは国宝以外の仏像を含め「如来、菩薩、明王、天、その他」の 5 種類 (5 ランク) に再分類した。	
1. 如 来 ★★★★★	如来とは、もとは悟りを開いたお釈迦さまのこと (釈迦如来) だったが、仏教の教えが深まるにつれ、様々な如来像が登場した。 如来はトップ・オブ・仏として、文句なしの★★★★★ (5 つ星)。	
釈迦涅槃像 (法隆寺五重塔)	初層にある仏教説話を表現した <b>塑像</b> 。まるで今眠りについたかのように横たわるシャカを囲み、菩薩や多数の弟子たちが悲嘆している。号泣する比丘像はド迫力。	277
飛鳥大仏 (飛鳥寺)	正式には <b>釈迦如来坐像(銅造)</b> ・止利仏師作。日本最古の丈六仏*。 (*丈六仏とは、シャカは身長が 1 丈 6 尺 (4.8m) あったとされることから、この大きさを作られた仏像のこと (坐像はその 1/2 サイズ))。	163
薬師如来 (薬師寺金堂)	銅造。本尊の <b>薬師如来坐像 (台座)</b> に四神の彫刻) は男性的で雄偉な姿。両脇の日光 (東側=向かって右)・ <b>月光菩薩</b> (左側) は腰をひねった姿。	273 274
薬師三尊 (室生寺金堂)	国宝木造釈迦如来立像は近世まで <b>薬師如来</b> として祀られてきた。	283
毘盧遮那仏 (東大寺大仏殿) (唐招提寺金堂)	2度の火災で罹災したが、公慶の尽力により <b>江戸時代</b> (1692年) 開眼供養。 金堂本尊で内陣中央にまつられた国宝の脱活乾漆像。	46 274
弥勒仏像 (興福寺北円堂) (大野寺磨崖仏)	弥勒には如来形の弥勒仏と弥勒「菩薩」がある。 (弥勒は、シャカが入滅してから 56 億 7 千万年後に姿を現す未来仏) 藤原不比等が信仰。 <b>運慶</b> 工房が挙げて取り組んだ円熟期の作品。 宇陀川を挟んだ対岸に彫られた 11.5m の磨崖仏 ( <b>弥勒仏</b> )。	273 152
大日如来像 (円成寺相應殿)	奈良市忍辱山町。 <b>運慶</b> の若い頃の作品 (木造) で、清新な美。 (2017 年末に安置場所が従来の <b>多宝塔</b> から <b>相應殿</b> に変更となった)	75



項目	解 説	公式テキスト頁
<b>2. 菩薩</b> ★★★★★	菩薩とは「悟りを求めて修行する者」で、菩薩像のモデルはお釈迦さまの王子の頃の姿。トップに昇る途上にあるから★★★★★（4つ星）	
<b>救世観音像</b> (法隆寺夢殿)	<small>くすのき いちぼくづくり</small> 楠の一木造。聖徳太子の在世中、太子と等身に造られたと伝える。1884（明治17）年、岡倉天心と <small>おかくらてんしん</small> フェノロサにより発見された。当初の金箔がよく残る。秘仏で、春と秋の特別開扉期間のみ公開される。	280
<b>百済観音像</b> (法隆寺大宝蔵院)	飛鳥時代・木造。大宝蔵院の中にある「百済観音堂」に安置。 <small>ほつとうしんぞう</small> 八頭身像で、横から見るとゆるやかなS字型。天にゆらゆらと昇るような姿。	278
<b>不空羂索観音像</b> (東大寺法華堂)	本尊。 <small>むな</small> 空しからざる（不空） <small>ふくろう</small> 投げ縄（羂索）で衆生を救う。 <small>さんもくはつび</small> 三目八臂（眉間にも目があり手は8本）の天平仏。頭上に <b>銀製</b> の <small>ほうかん</small> 宝冠。	264
<b>十一面観音像</b> (聖林寺)	奈良時代・乾漆造。もとは <small>おおみわ</small> 大神神社の神宮寺（ <small>だいごりんじ</small> 大御輪寺）の仏像。鋭い面差しとウエストの引き締まった豊かな体は天平仏の完成型。	130
(東大寺二月堂) (長谷寺)	お水取り（ <small>しゅにえ</small> 修二会）の本尊で知られる。 本堂本尊。 <b>地藏菩薩</b> の特徴（手に <small>すいびょう</small> 水瓶・ <small>しやくじょう</small> 錫杖を持つ）を兼ね備えている。	129
<b>3. 明王</b> ★★★	<small>みょうおう</small> 明王は密教特有の仏像。密教で最高の仏である大日如来の使いで、敵対する異教の神を教えで屈服させる（ただし奈良県下に明王は少ない）。使者なので★★★（3つ星）。	
<b>愛染明王像</b>	（西大寺）鎌倉時代・木造（愛染堂内に安置）。	
<b>4. 天</b> ★★	<small>てん てんぶ</small> 天（天部）は、天界に住む神々が仏教に取り込まれて生まれた仏さまで、仏法を守り庶民に福德をもたらす守護神。県下には <small>あしゅら</small> 阿修羅像はじめ、優れた天像が多いが、仏さまのランクとしては、★★（2つ星）。	
<b>四天王像</b> (東大寺 <b>戒壇堂</b> )	奈良時代・塑像。持国天、 <b>增長天</b> 、広目天、多聞天の4体。東→南→西→北の順に「 <small>じぞうこうた</small> 持増広多」（地蔵買うた）と覚える。	266
<b>伎芸天像</b> (秋篠寺)	<b>頭部</b> は奈良時代の乾漆造、体部は鎌倉時代の木造。 <small>うれい</small> 愁いを帯びた表情が見事。伎芸天の名は、明治以降、歌うような口元の表現からつけられた。	70
<b>金剛力士像</b> (東大寺 <b>南大門</b> )	阿形（あぎょう）と吽形（うんぎょう）の2体。鎌倉時代・木造。運慶・快慶ら慶派の仏師による仁王像。	266 267
<b>執金剛神像</b> (東大寺法華堂)	法華堂の本尊（不空羂索観音立像）の背後に安置されている。奈良時代・塑像。 <small>ふんぬ</small> 憤怒の顔がすごい。均整の取れたプロポーションは、東大寺戒壇院の四天王像と共通。	265

項目	解 説	公式テキスト頁
<b>阿修羅像</b> (興福寺)	奈良時代・乾漆造。八部衆（もとは古代インドの鬼神で、シャカの従者）の1体が阿修羅。手は6本・顔は3つ。甲冑を着けず <b>胸飾り</b> を付けている。平成21年には東京国立博物館、九州国立博物館の巡回展に出展。	268
<b>5. その他</b>		
★	ランクとしては★（1つ星）だが、仏像彫刻の傑作が目白押し。	
<b>良弁僧正像</b> (東大寺開山堂)	開山堂は二月堂の向かい。厨子に収められ、毎年12月16日の良弁忌に開扉。檜の一木造りで、当初の彩色が残る。	265
<b>無著・世親像</b> (興福寺北円堂)	鎌倉時代・木造。慶派の作。無著と世親は兄弟で、インド・ガンダーラ国のバラモン（最高の身分）として生まれた、法相宗の祖師。	273
<b>◆ 建 築</b>		
<b>飛鳥時代</b>		
<b>法隆寺</b> (西院伽藍)	西院伽藍（ <b>金堂</b> 、五重塔、中門、廻廊）は <b>飛鳥様式</b> で、 <b>胴張</b> （＝エンタシス。上が細くなる円柱の中ほどにつけたふくらみ）の柱や曲線を多用した <b>雲斗・雲肘木</b> （軒の支え）が特徴。世界最古の木造建築。	284 285
<b>奈良時代</b>		
<b>薬師寺東塔</b>	各階に裳階が巡り6層に見える三重塔（凍れる音楽）。	73
<b>五重小塔</b>	元興寺（極楽坊）と <b>海龍王寺</b> にある。高さ5m前後で、いずれも国宝。	69
<b>薬師寺八角堂</b>	藤原仲麻呂が父武智麻呂の菩提を弔うため建立。内陣の柱や天井に彩色画が残る。 <b>国宝</b> 。	216
<b>正倉院宝庫</b>	校倉造、屋根は寄棟造（4つの流れを組み合わせた屋根）、 <b>瓦葺</b> 。現存する奈良時代の倉庫として、最も規模が大きい。奈良時代の「 <b>正倉</b> 」の実態を伝える唯一の遺構。 <b>昭和21年</b> から <b>正倉院展</b> 開催。	345
<b>唐招提寺講堂</b>	平城宮の <b>東朝集殿</b> を移築改造した建物。	74
<b>奈良～平安時代</b>		
<b>當麻寺三重塔</b>	東西の古塔が唯一並びたって残る。	195
<b>室生寺五重塔</b>	屋外に建つ最小（ <b>16m</b> ）の五重塔。	151
<b>鎌倉時代</b>		
<b>東大寺南大門</b>	平安時代末に <b>平重衡</b> による南都焼討ちで焼かれた東大寺は、 <b>重源</b> が中国の工人・ <b>陳和卿</b> の協力を得て「 <b>大仏様</b> 」（南宋の建築様式）で再建された。豪快な構造美を前面に打ち出す技法で、元興寺極楽坊本堂などにもみられる。	286
<b>興福寺三重塔</b>	鎌倉初期の再建で国宝。	59/287
<b>北円堂</b>	南円堂（江戸時代）とともに「円堂」という名であるが、実際の平面形は「 <b>八角形</b> 」。	
<b>法隆寺西円堂</b>	別名「 <b>峯の薬師</b> 」と呼ばれる奈良時代の乾漆像を本尊とする。	278
<b>宇太水分神社</b>	本殿は隅木入り春日造で国宝である。	148

項目	解説	公式テキスト頁
室町以降		
興福寺五重塔	応永33年(1426)再建。令和5年より約120年ぶりの大規模修理中。 県内の寺社建築で最も高い木造の塔。	59/287
唐招提寺御影堂	門跡寺院である興福寺・一乗院の遺構を復元した。	74
吉野水分神社	中央の春日造と左右の流造の三殿が一棟につながる本殿がある。	213
吉水神社	最古と言われる書院造の建造物(重要文化財)がある。	212
談山神社	美しい檜皮葺の木造十三重塔が建ち、紅葉の名所としても知られる。	127
春日大社本殿	江戸時代に建て替えられているが、春日造の古式を伝える(県内に <b>春日造</b> の本殿が一番多いのは、中世末まで春日社興福寺領が多かったため)。	288
法輪寺三重塔	昭和19年火災焼失後、昭和50年の再建( <b>国宝ではない</b> )。	104
平城京の復元建築	大極殿、朱雀門、東院庭園、 <b>大極殿院南門</b> (令和4年に復元)	
その他		
依水園	東大寺南大門を望む場所にあり、国の名勝に指定された池泉回遊式庭園。	92
(大和三名園)	慈光院、中之坊(當麻寺)、竹林院(古くは慈光院の代わりに大乘院)。	
慈光院・庭園	茶人として名高い <b>片桐石州</b> (片桐貞昌)が造園。	116
竹林院・群芳園	吉野の竹林院にある池泉回遊式庭園。	220
當麻寺中之坊	(香藕園)三重塔が借景。片桐石州が造園と伝わる。(2級では未出題)	196
◆絵画・工芸品		
當麻曼荼羅	<b>當麻寺</b> の本尊。曼荼羅は、悟りの世界を象徴するものとして、諸仏、菩薩、神々を網羅して描いた図。當麻曼荼羅とは、中将姫伝説による根本曼荼羅(蓮糸曼荼羅)に基づいて作られた「 <b>極楽浄土曼荼羅</b> 」の総称。	195
信貴山縁起絵巻	信貴山・朝護孫子寺が所蔵する平安末期の絵巻物、全3巻(国宝。作者は不明)。僧・ <b>命蓮</b> に関する奇跡物語を描く。平安時代末に焼亡する以前の東大寺大仏が描かれている場面がある。	102
唐招提寺御影堂障壁画	<b>東山魁夷</b> は1970年代から障壁画を描き始め、1980年に完成させた(全68面)。6/6の開山忌(鑑真和上の命日)と前後の3日間、和上像とともに一般公開。	74
薬師寺玄奘三蔵院伽藍壁画	玄奘三蔵院は1991年建造。2000年、 <b>平山郁夫</b> が描いた「大唐西域壁画」(縦2.2m、長さ49m)が、玄奘塔北側の大唐西域壁画殿に祀られた。	73
慈恩大師画像	平安時代の国宝肖像画。	
長岳寺・地獄絵	狩野山楽が描いた大幅の絵画で地獄を題材にしている。	128
糸井神社・絵馬	川西町。絵馬には雨乞いに関わる踊り( <b>なもで踊り</b> )が描かれている。	112

# 7. 文 学 (P318～331)

項目	解 説	公式テキスト頁
◆古事記 (712年完成)	現存最古の書物（全3巻）。神話・伝説と多数の歌謡を含みながら、天皇を中心とする日本統一の由来を物語る。 <small>ひえだのあれ</small> <small>しようしゅう</small> 稗田阿礼が誦習し、 <small>おおの や す ま る</small> 太安万侶（奈良市内の茶畑で <small>ぼし</small> 墓誌が発見）が <small>せんろく</small> 撰録。 <b>大和は国のまほろば たたなづく青垣 山こもれる大和しうるはし</b> ( <small>やまとたけるのみこと</small> 倭健命) 大和は素晴らしい国。山々が重なり青々とした垣のように山に囲まれた大和は、なんて美しいのだろうか。（大和の国を賛美した古事記の「国ほめ」の歌）	89 94
◆万葉集 (名歌紹介) 平城京	現存最古の歌集（20巻）で約 <b>4500首</b> 収録。奈良市だけで延べ <b>250</b> の万葉地名を数える（県下の全万葉地名の1/4）。奈良という地名のついた歌は51首。 <b>あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛りなり</b> ( <small>おののおゆ</small> 小野老) ※ <small>だいざいふ</small> 太宰府で奈良の都を思って詠んだ歌。なお「あをによし」の「青丹」は顔料になる <small>ろくしゅう</small> 緑青（奈良で産出）、よしはほめ言葉で、奈良の産物をほめている。 <b>世間を常なきものと今ぞ知る 奈良の都のうつろふ見れば</b> (作者未詳) 世の中が無常なものと今こそ思い知った、奈良の都の寂れていくのを見ると ※ <small>あそ</small> 恭仁京遷都後の平城京の荒廃を嘆いて詠んだ歌。この時代の紅葉は「黄葉」。	318 318 319
 <small>いこま やま</small> 生駒(山) (生駒市)	<small>なににはと</small> 難波津を漕ぎ出でて見れば <small>かみ</small> 神さぶる <small>いこまたかね</small> 生駒高嶺に雲そたなびく (◎4380 <small>さきもり</small> 防人の歌) 「難波の港を、(船で)漕ぎ出しました。神々しい、生駒山の峰に、雲がたなびいています」	321
<small>あまの</small> 阿騎野 (宇陀市)	<small>ひむがし</small> 東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ (柿本人麻呂) 東方の野に <small>しよく</small> 曙光の立つのが見えて、振り返ると、月は西に傾いている。 ※ <small>はさま</small> 迫間（大字陀市大字陀区）の「かぎろひの丘万葉公園」にはこの歌碑が建つ。毎年旧暦 11/17 には「かぎろひを見る会」が催されている。	323
<b>ハギ</b>	『万葉集』に最も多く登場する花（花の項目でも2回出題されている）	249
		
明日香	<small>うねめ</small> <small>そで</small> 采女の袖吹き返す <small>あす かかげ</small> 明日香風 都を遠みいたづらに吹く ( <small>しぎのみこ</small> 志貴皇子) 采女の袖を吹き返す明日香風は、都が遠のいたので <small>むな</small> 空しく吹いている。 ※都が明日香から藤原京に移った後に詠まれた歌。	325
二上山	うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む ( <small>おおくのひめみこ</small> 大伯皇女) 大伯皇女が、謀反の罪に問われ葬られた弟 <small>おおつのみこ</small> 天津皇子を偲んで詠んだ歌。	326

項目	解説	公式テキスト頁
<p>巨勢・巨勢山 (御所市古瀬)</p>	<p>巨勢山のつらつら <b>椿</b> つらつらに見つづはな巨勢の春野を (坂門人足) 巨勢山のつらつら椿をつらつら見ながら偲ぼう、巨勢野の春の光景を。 ※今は椿の時期ではない(秋)が、名高い巨勢の春野を偲ぼうという歌。</p>	327
<p>万葉集に載る 吉野離宮</p>	<p>山川もよりに任ふる神ながら たぎつ河内に船出せずかも (柿本人麻呂) ※天武朝で吉野は壬申の乱の勝利の原点で、聖地。なお万葉集で「吉野」は、主として吉野離宮(天武・持統天皇が逃れた)のあった「宮滝」のこと。</p>	327
<p>◆その他古典 仏足石歌</p>	<p>仏足石とはシャカの足形を石に刻んだもの。 <b>薬師寺</b>には現存最古の仏足石があり、<b>仏足跡歌碑</b>(21首)が立つ。 歌の形式は「5・7・5・7・7・7」の6句形式(仏足石歌体)で、他にこの形式の歌は古事記・万葉集に各1首のみ。</p>	73
<p>古今和歌集</p>	<p>天の原ふりさけ見れば <b>春日</b>なる <b>三笠</b>の山に出し月かも (阿倍仲麻呂、望郷の歌)</p>	
<p>中将姫伝説</p>	<p>奈良時代、藤原豊成の娘・中将姫は、奈良町(奈良市)の<b>誕生寺</b>で生まれ高林寺(同)で成長。<b>徳融寺</b>(同)には父娘の<b>供養塔</b>がある。<b>継母</b>にいじめられた姫は<b>青蓮寺</b>(宇陀市)で成人。後に<b>當麻寺</b>(葛城市)で出家、一夜で<b>極楽曼荼羅</b>(当麻曼荼羅)を織り上げた。 石光寺(同)には姫が蓮糸を染めた井戸が残る。 <b>折口信夫</b>の『<b>死者の書</b>』は、この伝説がモチーフ。</p>	331
<p>懐風藻</p>	<p>現存最古の漢詩集。序は751年(天平勝宝3)。64人の詩120編を年代順に収録。</p>	41
<p>奈良の八重桜 (百人一首)</p>	<p>いにしへの奈良の都の八重桜 けふ九重に匂ひぬるかな (<b>伊勢大輔</b>) <b>平安時代</b> 古い都があった奈良の八重桜は献上された今日、ここ平安京の九重の宮中で色美しく咲き誇るのだなあ。(伊勢大輔は平安朝の女流歌人で36歌仙の1人)</p>	234
<p>竜田川(同)</p>	<p>嵐吹く三室の山のもみじ葉は 竜田の川の錦なりけり (<b>能因法師</b>) ちはやぶる神代もきかず <b>竜田川</b> からくれなゐに水くくるとは (在原業平)</p>	
<p>初瀬詣 (長谷詣)</p>	<p>『源氏物語』第22帖で、<b>玉臺</b>(夕顔の娘)は九州～奈良の旅の無事を感謝し、長谷寺に詣でる。そこでかつて夕顔の侍女であった右近という女房にめぐり会う。出会った場所は、三輪山の麓・椿市(海石榴市：<b>桜井市</b>)。この初瀬詣の様子は『<b>更級日記</b>』にも登場する(当時は初瀬詣が盛んだった)。枕草子にも「市」の段に登場する。</p>	129



項目	解説	公式テキスト頁
芭蕉	<p>若葉しておん目の零拭はばや（「笈の小文」句碑は唐招提寺旧開山堂前）  来朝するとき目が見えなくなったという鑑真和上の像が、涙を落としているように見えた。それを柔らかい若葉で拭って差し上げようという意。</p> <p>露とくとくと試に浮世すすがばや（苔清水にて「野ざらし紀行」）  西行の「とくとくと落つる岩間の苔清水 汲みほすほどもなき住居かな」  『山家集』を踏まえて詠まれた句。</p> <p>菊の香や奈良には古き仏たち（ならまち称念寺に句碑）</p>	74
その他	<p>西行法師（中世に吉野山の奥深くに庵を結んだ）  『壺坂霊験記』（壺坂寺を舞台にしたお里・沢市の物語）  『宇治拾遺物語』の「わらしべ長者」説話の舞台として長谷寺が出てくる。  『菅笠日記』（本居宣長が書いた書物：旅行記）</p>	225 165 344
◆近代文学		
詩歌	<p>柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺（正岡子規）  おほてらのまろきはしらのつきかけを つちにふみつつものをこそおもへ</p> <p>会津八一『鹿鳴集』所収（唐招提寺金堂脇の歌碑に刻まれている）</p> <p>ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なるひとひらの雲（佐佐木信綱）  森鷗外『奈良五十首』（鷗外は正倉院の曝涼＝宝物の虫干しに立ち会った）、  阿波野青畝（高取町生まれ。南都銀行の前身・旧八木銀行に勤務。高浜虚子に師事。俳誌「かつらぎ」主宰）、前登志夫『前登志夫歌集』（下市町生まれ）</p>	329
小説	<p>高浜虚子『斑鳩物語』  堀辰雄『大和路 信濃路』  （堀は、唐招提寺を「此処こそは私達のギリシアだ」と賞賛した）</p> <p>谷崎潤一郎『吉野葛』（義経や後南朝の伝承が登場）</p> <p>井上靖『天平の甕』（鑑真）  『漆胡樽』（正倉院宝物を通して綴る西域と中国大陸の興亡）</p> <p>折口信夫『死者の書』  （中将姫伝説に取材し、古代人の生活・心情を再現した詩的小説）</p> <p>松本清張『火の路』  （飛鳥の石造物とペルシャのゾロアスター教を結びつけた）</p> <p>内田康夫『平城山を越えた女』『箸墓幻想』『天河伝説殺人事件』  万城目学『鹿男あをによし』（人間の言葉を話す鹿が登場するファンタジー）  黒岩重吾『天の川の太陽』『落日の王子・蘇我入鹿』『古代史の迷路を歩く』  川村たかし『新十津川物語』  （明治22年の大水害での十津川村民の北海道移住を描いた）</p>	329 329 331 330 331 331 331
その他	<p>和辻哲郎『古寺巡礼』  志賀直哉『奈良』（随筆・志賀は18回目の引っ越しで奈良市に来て14年間  住み、ここで『暗夜行路』を書き上げた）</p> <p>坪内逍遙『役の行者』（戯曲）  住井すゑ『橋のない川』</p>	329 331







## 8. 伝統工芸・特産品 (P332～341)

項目	解説	公式冊子頁
◆ <b>伝統工芸</b>		
<b>筆</b>	平安時代初期、唐から帰った空海（弘法大師）は、毛筆の新しい製法を坂名井清川に教え、それが現代に継承され「奈良筆」に。奈良市の伝統工芸品。	332
<b>墨</b>	610（推古天皇 18）年に高句麗の僧・ <b>曇徴</b> が紙墨の製法を伝え、平安時代初期に空海が改良した。「奈良墨」の起源は <b>室町時代、興福寺</b> 二諦坊で灯明のススを集めて作った油煙墨。年間生産量は約 500 万本。	332
<b>いっとうぼ 一刀彫り</b> (奈良人形)	素彫りの木彫りに金箔や岩絵具で極彩色を施す(もと奈良人形、明治以降は一刀彫り。 <b>1本の鑿で彫るのではない</b> )。おん祭りの小さな人形(尉と姥)がルーツ。岡野松寿家代々は江戸期の奈良人形師。幕末～明治期に <b>森川杜園</b> が活躍。	333
<b>あかはだ 赤膚焼</b>	<b>奈良市</b> 赤膚町(五条山)で焼く。江戸後期に <b>奥田木白</b> が活躍。萩釉と奈良絵が特徴。	335
<b>茶せん</b>	<b>生駒市</b> 高山町特産。村田珠光から指導を受けて考案。13名が高山茶せん師として1716(正徳6)年から苗字帯刀。穂の内側を削る技法を「味削り」という。	335
<b>奈良漆器</b>	正倉院宝物に倣ったもので、 <b>螺鈿</b> (貝をはめ込んで文様にする技法)が特徴。	337
<b>吉野和紙</b>	江戸時代以降、 <b>国栖紙</b> (宇陀紙)、 <b>森下紙</b> 、 <b>吉野紙</b> (漆漉紙)などで名声を博した。現在、吉野和紙は吉野町の国栖・窪垣内・南大野で漉かれる。	337
<b>その他</b>	<b>奈良晒</b> (麻の織物。江戸初期に清須美源四郎が改良し <b>17世紀後半</b> には「南都随一の産業」とうたわれ最盛期であった)。下市町の <b>三宝</b> (鏡餅などを載せる。全国シェア8割)・神具。五條市大塔町の <b>坪杓子</b> (材料は栗の木)。	336 338 338
◆ <b>特産品</b>		
<b>清酒</b>	室町時代、正暦寺(奈良市)で初の「清酒」が造られた(以前は濁り酒)。酒母は「菩提もと」。「南都諸白」と評判に。	339
<b>大和茶</b>	806(大同元)年、唐から帰った弘法大師が <b>室生</b> に植えた。佛隆寺(宇陀市)に大師の <b>茶臼</b> が伝わる。 <b>大和高原</b> は大和茶の特産地が集中。 <b>村田珠光</b> はわび茶の方式を創始し、「茶礼祖」と呼ばれる。称名寺にある茶室は「 <b>独爐庵</b> 」。	339 60
<b>金魚</b>	江戸時代後半に郡山藩で養魚され、明治時代に発展、各地に供給されている。今は毎夏、 <b>大和郡山市</b> で「全国金魚すくい大会」が開催される。	339
<b>だらにすけ 陀羅尼助</b>	<b>役小角</b> が洞川(天川村)に伝えた <b>薬</b> 。大峯登山の土産。原料はキハダなど。	341
<b>その他</b>	奈良漬(長屋王木簡に残る。原型は室町時代、 <b>どぶろくに溜まる汁粕に漬けた</b> )。三輪素麺(原型は中国の <b>索餅</b> 。 <b>真冬に寒干</b> )。	339 340
	柿の葉寿司( <b>吉野・五條の郷土料理</b> )。吉野葛(原料は葛の <b>根</b> )。 <b>グローブ</b> (奈良県が全国的なシェアを誇る野球道具)。 <b>菊</b> (葛城市や平群町が産地で産出量日本一の種類もある)。 <b>奈良伝統野菜</b> (筒井れんこん、祝だいこん、片平あかね等)。あすかるビー( <b>いちご</b> )	341
	<b>出雲人形</b> (長谷寺参拝のお土産・県伝統的工芸品)	
	<b>柿</b> (五條市：日本有数の産地を誇り博物館もある)	


## 9. 祭り・行事 (P301~317)

項 目	解 説	公式冊子頁
◆正月		
<b>茅原のトンド</b> 若草山焼き	1/14 <b>御所市</b> ・吉祥草寺（役行者の生誕地とも）で大松明を燃やす行事。 1月第4週の土曜日。若草山が焼かれ花火が上がる、野焼き行事。	302
癌封じささ酒祭り (大安寺光仁会)	桓武天皇が父・光仁天皇の御忌を大安寺で営んだことから、1/23 太い竹筒に入れた酒を青竹の杯で受け癌封じを祈る（最近は「ささ水」も）。	316
<b>おんだ祭り</b>	「おんだ」はお田植え行事。 <b>飛鳥坐神社</b> のおんだ祭り（2月第1日曜）は、農作業の所作の後、 <b>天狗</b> と <b>お多福</b> が交わり豊穰を願う奇祭。	301
国栖奏 節分	旧正月14日に <b>吉野川</b> の畔にある浄見原神社で行われる。	214
<b>朝拝式</b>	2/3 <b>大神神社</b> 参加者が豆まきのときに「福は山」と唱ずる。	
砂かけ祭り	2/5 川上村金剛寺で後南朝・自天王（北山宮）を偲ぶ行事が行われる。	
<b>だだおし</b>	2/11 <b>広瀬神社</b> （北葛城郡河合町）で、水（雨）に見立てた砂をかける。	316
お水取り (修二会)	2/14 <b>長谷寺</b> 。十一面観音悔過法要の後、松明に導かれた鬼が本堂を回る。 東大寺二月堂で <b>十一面観音</b> に罪過を懺悔して除災招福を祈る悔過法要。良弁の高弟・ <b>実忠</b> が752年に創始。本行は <b>3/1~14</b> （これに先立ち別火という前行あり）で毎夜大松明が出る。練行衆は11人。 <b>旧若狭国</b> （福井県）の鶴の瀬（小浜市）から香水が送られる（ <b>お水送り</b> ）。達陀の行では、練行衆が松明を持ち内陣を駆ける。3/15の達陀帽ただかせは、帽子を幼児にかぶせ、災難を除き賢く育つことを祈る。水取りや氷（or 籠もり）の僧の沓の音（芭蕉）。 遠敷明神が遅刻のお詫びに二月堂近くに香水を湧き出させたという。	316 304
		
春日祭(申祭り)	3/13 春日大社 勅使の参向を仰いで行われる春日大社の例祭。	
<b>花会式</b>	3/25~3/31 薬師寺の本尊薬師三尊の前で行われる修二会。	316
◆春~初夏		
<b>ちゃんちゃん祭り</b>	4/1 天理市大和神社。行列が出る。大和で最も早い春の祭りで俗謡に「祭り初めはちゃんちゃん祭り、祭り納めはおん祭り」と歌われる。	301
當麻寺練供養 (當麻レンゾ)	4/14 受難の末即身成仏した <b>中将姫</b> が二十五菩薩に迎えられ浄土に導かれるさまを表現。「スクイボトケ」（観音）は、両手に蓮台を持ち娑婆堂に向かう。 2019年より一か月先行して実施するようになった（5/14⇒4/14）	307
<b>新御能</b> (5月第3金土曜)	春日大社と <b>興福寺南大門跡</b> で営まれる行事。もとは興福寺修二会の一環。 野外能の発祥。はじめ春日大社舞殿で「翁」を舞う（呪師走りの儀）。	306
唐招提寺 うちわまき	(梵網会) 5/19 同寺を再興した覚盛上人をしのび、 <b>ハート型</b> の宝扇を撒く。	308
ゆり祭り (三枝祭り)	6/17 奈良市の率川神社 ササ <b>ユリ</b> をかざした4人の巫女が舞を奉納。 三島由紀夫の『奔馬』（豊穰の海）にも登場する。	53/301 317

項目	解説	公式テキスト頁
<p>◆夏</p> <p><b>蛙とび</b> (金峯山寺 蓮華会)</p> <p>風鎮大祭</p> <p>お身拭い</p> <p>ホーランヤ</p> <p>中元万灯籠</p> <p>なら燈花会</p> <p>大文字送り火</p> <p>元興寺地蔵会</p>	<p>蓮の花を本尊に供える行事。7/7 吉野の金峯山寺で営まれる。着ぐるみの<b>蛙</b>が飛び跳ねる。蓮は、役行者の母ゆかりの大和高田市奥田の池で摘む。</p> <p>7月に<b>龍田大社</b>で行われる風の神に五穀豊穰を祈願する祭。</p> <p>8/7 白装束の僧侶たちが<b>東大寺</b>の大仏にとりつき、一斉に埃を落とす。</p> <p>8/15 橿原市東坊城町 2つの神社の境内で日中の炎天下で 17 の<b>松明</b>が燃やされる。先祖の霊を迎える行事が大規模化したもの。</p> <p>8/14～15 春日大社境内約<b>3千基</b>の石灯籠・釣り灯籠に灯明が献じられる。</p> <p>8月上旬～中旬 奈良公園一帯にろうそくの火がともる。<b>1999年</b>創始。</p> <p>8/15戦没者供養として、奈良市<b>高円山</b>で大の字に火がともされる。</p> <p>8/23～24 元興寺極楽坊で開催される地蔵会において数千の明りは<b>灯明皿</b>に灯される。</p>	<p>219</p> <p>317</p> <p>317</p> <p>301</p> <p>315</p> <p>315</p> <p>315</p>
<p>◆秋～冬</p> <p>采女祭り</p> <p>曾爾の獅子舞</p> <p>火取りの神事</p> <p>鹿の角きり</p> <p>翁舞</p> <p>なもで踊り</p> <p>けまり祭</p> <p>題目立</p> <p>いのこの暴れまつり</p> <p>春日若宮おん祭</p> <p>(12/15)大宿所祭</p> <p>(12/16)宵宮祭</p> <p>(12/17)遷幸の儀</p> <p>暁祭、御渡式の順</p> 	<p>9月<b>中秋</b>の名月の日、奈良市の采女神社で催される。ミス采女や花扇使などが市内を練り歩いた後、夜には2隻の舟に乗り、<b>猿沢池</b>を回る。</p> <p>10月(体育の日の前日)曾爾村門僕神社で行われる。山添、御杖、旧室生、曾爾の県下4村に伝わる伊勢太神楽系獅子舞の代表格。</p> <p>生駒市の往馬大社は火の神を祭る。例祭(火神祭・体育の日の前日)では、松明を持って競争で石段を駆け降りる。</p> <p>10月土日祝の3日程度。危険防止のため牡鹿の角を切る。1672年創始。</p> <p>10/8 <b>奈良豆比古神社</b>の宵宮祭に奉納される。翁と脇の3人が、ゆったりとした動作で舞う。謡曲や狂言のルーツとも。重要無形民俗文化財。</p> <p>10月第4土曜 安堵町・飽波神社で行われる雨乞いに関わる踊り。</p> <p>11/3(春は4/29)談山神社 中大兄皇子と藤原鎌足の故事にちなむ。</p> <p>10/12 奈良市上深川町・八柱神社。語り物が舞台化した初期の姿。成人儀礼として数え17歳の若者が行う。09年ユネスコ無形文化遺産に登録。</p> <p>12月第1日曜 桜井市高田で行われる。<b>子ども</b>が乱暴にふるまう「暴れ」が特徴。暴れがひどいほど豊作といわれ、子どもの健やかな成長を願う。</p> <p>春日大社若宮社(春日大社摂社)の例祭。関白・藤原忠通が除災と五穀豊穰を祈るため創始。10/1 御旅所における縄棟の儀で始まる。メインの行事は12/15～18。12/17には遷幸の儀。同日午前0時に若宮の神が御旅所に移るために出御する。芸能による祭り・寺院(興福寺)による祭礼・稚児が務める祭りという3つの特色をもつ「生きた芸能史」。</p>	<p>317</p> <p>311</p> <p></p> <p>317</p> <p>54</p> <p></p> <p>312</p> <p>317</p> <p>313</p>

## 10. 観光・文化

項 目	解 説	公式冊子頁
◆ <b>奈良の世界遺産</b>	世界遺産とは、世界遺産条約により登録された自然・文化で、「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」に分類。奈良県に <b>3件</b> 。07年「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が世界遺産暫定リストに掲載された。	
法隆寺地域	<b>法隆寺地域の仏教建造物</b> として <b>1993(平成5年)</b> に登録(令和5年で <b>30周年</b> )された、日本で最初の世界文化遺産。法隆寺・法起寺( <b>国宝三重塔</b> )の建造物の総称。	298
古都奈良	古都奈良の文化財として1998(平成10年)に登録。東大寺、興福寺、春日大社、 <b>元興寺</b> 、薬師寺( <b>最も南</b> )、唐招提寺、平城宮跡、 <b>春日山原始林</b> の <b>8</b> つ。これらが語る奈良の歴史・文化の特質が評価された。 <b>(西大寺、大安寺は含まれない)</b>	299
紀伊山地の霊場	紀伊山地の霊場と参詣道として2004(平成16年)に登録。「吉野大峯」「熊野三山」「高野山」と参詣道で構成。奈良・和歌山・三重の3県にまたがる。奈良県内の構成施設は吉野山、吉野水分神社、金峯神社、金峯山寺、吉水神社、大峯山寺、 <b>大峯奥駈道</b> (吉野山～ <b>熊野三山</b> に至る参詣道で、 <b>役行者</b> が開いた修験者の修行道。玉置神社を含む)、熊野参詣道 <b>小辺路</b> (高野山と熊野本宮を最短距離で結ぶ道)。 <b>(如意輪寺、吉野神宮(明治に創建)は含まれない)</b> (吉3、金2、大2、小1と暗記しよう!)	299 300
		
◆ <b>ユネスコ無形文化遺産</b>	平成21年(2009)に奈良市の <b>題目立</b> がユネスコの「無形文化遺産」に登録された。	312
◆ <b>重要文化的景観</b>	平成23年(2011)に <b>奥飛鳥</b> が指定された。	
◆ <b>自 然</b>		
たきさかのみち <b>滝坂道</b> どろがわ <b>洞川温泉</b>	春日山と高円山の谷間に沿って登る石畳の <b>柳生街道</b> 。沿道に石仏が多い。大峯山山上ヶ岳の登山基地としても知られる温泉。	82
◆ <b>近代化遺産</b>		
<b>大仏鉄道</b>	1898(明治31)年に開通の関西鉄道の路線。1907年に廃止。旧大仏停車場跡(奈良市法蓮町)は公園として整備され、モニュメントがある。	260
近鉄生駒ケーブル	日本最古の営業用ケーブル。宝山寺線の車両は <b>ブル号とミケ号</b> の愛称がつく。	261
谷瀬の吊り橋	十津川村上野地。1954(昭和29)年に架橋。高さ <b>54m</b> 、長さ <b>300m</b> 。	262
その他の 近代化遺産	JR奈良駅旧駅舎(明治に開業。1934年の改築の際、屋根の上に <b>相輪</b> が付けられ寺院のような姿になった。現在は <b>奈良市総合観光案内所</b> ) 吉野ロープウェイ(1929年開業。 <b>国内で現役最古</b> )。	260 262

項目	解説	公式テキスト頁
◆集落と町並み		
重伝建地区	奈良県は歴史的・文化的景観に恵まれ、著名な「むかし町」も多い。文化財保護法が選定する重要伝統的建造物群保存地区。県下では、 <b>橿原市今井町</b> （称念寺を御坊として発展した <b>寺内町</b> ）、 <b>宇陀市松山地区</b> （06年。秋山氏の城下町が発祥）、 <b>五條新町</b> （10年。江戸期の町並み）の <b>3か所</b> 。	293
五條新町	五條は交通の要衝で、新町は江戸時代に繁栄した商家町。 <b>栗山家住宅</b> は、棟札から1607（慶長12）年築で、建築年代のわかっているものでは日本最古の民家（内部は非公開）。五條と新宮を結ぶ鉄道・五新線は未完となった。	294 290
×五新線		
環濠集落	<b>榊田</b> 、番条、若槻（すべて大和郡山市）の環濠は、城郭として成立。	110/297
初瀬・三輪	それぞれ長谷寺、大神神社の門前町・宿場町として発展。	297
◆その他		
文化財保護法	昭和24年の <b>法隆寺金堂火災</b> を契機として翌年（昭和25年）成立。	48
行基	近鉄奈良駅前の噴水の中に建つ像の僧侶。	
田村第	藤原仲麻呂の邸宅。 <b>平城宮内には存在しない遺跡</b> として出題された。	36
奈良県立	<b>明日香村</b> にある美術館・博物館。日本最古の歌集『万葉集』の世界をテーマとする。	158
万葉文化館		
奈良市姉妹都市	慶州・揚州・西安・キャンベラ・トレド・ベルサイユ	
	<b>洛陽は「該当しない」として出題された。</b>	
上村淳之	平城京遷都1300年祭で公開された平城宮第一次大極殿の四神と十二支の絵を描いた画家。	
平城京歴史館	平成22年（2010）の平城遷都1300年祭で、平城宮跡に新設された施設。	
蘭奢待	<b>織田信長</b> は正倉院に伝わる名香「蘭奢待」の一部を切り取ったといわれる。	344
ムジークフェスト奈良	平成24年から「ドイツ音楽との交流」をテーマに開催されている音楽祭。	
殯の森	平成19年カンヌ映画祭でグランプリ（審査員特別大賞）に輝いた河瀬直美監督の映画。	
かめバス	<b>明日香村</b> を走る観光用路線バス。	
キトラ古墳	1983（昭和58）年にファイバースコープで調査、玄武像が確認され話題に。墳丘は版築工法。二上山の凝灰岩製の横口式石槨。石材の継ぎ目には漆喰を塗り込め、その後全面を漆喰で塗っている。壁画は天井に精巧な <b>天文図</b> と日月像、側壁と奥壁、南壁に四神図、さらに北壁で3体、東西の各壁で各1体の獣頭人身像が確認されている。平成18年5月、奈良文化財研究所飛鳥資料館で <b>白虎</b> の実物が展示された。国営飛鳥歴史公園では平成28年に <b>キトラ古墳周辺地区</b> として開園した。キトラ古墳壁画体験館の名称は <b>四神の館</b> 。	181
		
なら瑠璃絵	毎年2月に開催される奈良公園周辺をLEDのあかりで演出する催し。	
町家の雛めぐり	高取町の土佐街道で平成9年（2007）から毎年行われている行事。	
天乃石立神社	人気アニメ「鬼滅の刃」の聖地巡礼で話題となった <b>一刀石</b> がある。	55
なら歴史芸術文化村	令和4年（2022） <b>天理市</b> に開設。歴史・芸術・食と農 など、奈良県が誇る文化に触れることができる施設。	

# 1 1. 特集問題

解 答	問 題
<p><b>第 10 回</b></p> <p>1. 文久3年 (1863)</p> <p>2. 興福寺</p> <p>3. 藤</p> <p>4. 林檎の庭</p> <p>5. 影向の松</p> <p>6. 萬葉</p> <p>7. 申祭</p> <p>8. 藤原永手</p> <p>9. 奈良国立 博物館の敷地</p> <p>10. 約 3000 基</p>	<p><b>「春日大社」</b></p> <p>1. 春日大社は古来社殿の造り替えを繰り返してきたが、現在の本殿は何年に全面的に造り替えられたものか。</p> <p>2. 朝廷に要求を訴えるため、春日社の神木を担ぎ出したのはどの寺の僧兵か</p> <p>3. 春日大社の社紋となっている花は</p> <p>4. 本殿の参拝所前の庭は東南隅に、ある木が生えている所から何とよばれているか</p> <p>5. 春日大社の一之鳥居を入った参道南側にあり春日明神ゆかりの松を何と呼ぶか</p> <p>6. 昭和7年(1932)、昭和天皇の御下賜金によって春日野の地に開園した植物園に冠されるのは</p> <p>7. 毎年、3月13日に勅使の参向を仰いで行われる「春日祭」の別名は</p> <p>8. 神護景雲2年(768)、称徳天皇の勅命によりはじめて社殿を造営したのは誰か</p> <p>9. かつて春日大社(春日社)には東塔・西塔の二塔があったが、その跡が残っているのはどこか</p> <p>10. 春日大社の「万燈籠」の際に、火を入れる境内の石灯籠、釣灯籠はおおよそいくつか</p>
<p><b>第 11 回</b></p> <p>1. 明治時代</p> <p>2. 蔵王堂</p> <p>3. 吉水神社</p> <p>4. 如意輪寺</p> <p>5. 竹林院</p> <p>6. 金峯神社</p> <p>7. 奥千本</p> <p>8. 熊野三山</p> <p>9. シヤマガケ</p> <p>10. 薬</p>	<p><b>「吉野山」</b></p> <p>1. 建武新政の事績を讃えて、後醍醐天皇を祀る吉野神宮が創建されたのはいつか</p> <p>2. 金峯山寺の中心堂である本堂の一般的な呼称は</p> <p>3. 吉野山にあり、文禄3年(1594)に豊臣秀吉が花見の本陣としたのは</p> <p>4. 本堂の扉に楠木正行の辞世の句が刻まれ、後醍醐天皇陵が隣接する吉野町の寺院は</p> <p>5. 「群芳園」として知られる池泉回遊式庭園のある吉野山の寺院は</p> <p>6. 源義経が身を潜めたという蹴抜塔(義経隠れ塔)がある吉野町の神社は</p> <p>7. 西行法師が隠れ住んだという「西行庵」があるのは吉野山のどの場所か</p> <p>8. 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のうち、大峯奥駈道は吉野山とどこを結ぶ修行の道か</p> <p>9. 吉野山の桜の種類で最も多いのは</p> <p>10. 吉野山や洞川の土産物として知られる「陀羅尼助」とは何か</p>

解 答	問 題	
<p><b>第 12 回</b></p> <p><b>1. 物部氏</b></p> <p><b>2. ツメシノ</b></p> <p><b>3. 大神神社</b></p> <p><b>4. 三輪山</b></p> <p><b>5. 元伊勢</b></p> <p><b>6. 相撲</b></p> <p><b>7. ちゃんちゃん祭</b></p> <p><b>8. 内山永久寺</b></p> <p><b>9. 地獄</b></p> <p><b>10. 十一面観音像</b></p>	<p><b>「山の辺の道の寺社」</b></p> <p>1. 石上神宮は大和朝廷の武器庫であったといわれるが、そこを管理したという氏族は。</p> <p>2. 石上神宮は花の名所とも知られている。境内に約 600 本が植えられているのは。</p> <p>3. 山の辺の道の沿道にあり大和国の「一の宮」とされるのは。</p> <p>4. 大神神社のご神体である山は。</p> <p>5. 『万葉集』に「三輪の檜原」と詠まれ、山の辺の道の歌枕ともなっている檜原神社の別名は。</p> <p>6. 卷向川の北側に鎮座する穴師坐兵主神社<small>あなしにいますひょうづじんじや</small>に伝えられる説話は何に関するものか。</p> <p>7. 4月1日に大和神社で行われる祭は。</p> <p>8. 石上神宮のすぐ南に位置し、明治のはじめに廃絶した真言宗の大寺は。</p> <p>9. 長岳寺には狩野山楽<small>かのうさんらく</small>が描いた大幅の絵画があるが、その絵は何を題材とするか。</p> <p>10. かつて大神神社の神宮寺であった大御輪寺<small>だいごりんじ</small>にまつられ、慶応4年(1868)、聖林寺<small>しょうりんじ</small>に移された国宝の仏像は。</p>	
<p><b>第 13 回</b></p> <p><b>1. 持統天皇</b></p> <p><b>2. 休ヶ岡八幡宮</b></p> <p><b>3. 高田好胤</b></p> <p><b>4. 東塔</b></p> <p><b>5. 薬師如来は薬壺を持つ</b></p> <p><b>6. 金銅薬師如来台座</b></p> <p><b>7. 奈良時代</b></p> <p><b>8. 慈恩大師</b></p> <p><b>9. 入江泰吉</b></p> <p><b>10. 平山郁夫</b></p>	<p><b>「薬師寺」</b></p> <p>1. 薬師寺は天武天皇が皇后の病氣平癒を願って創建した。この皇后は後の誰か。</p> <p>2. 薬師寺の鎮守八幡宮は。</p> <p>3. 昭和42年(1967)に薬師寺の管主となり、伽藍の復興に努めた僧侶は誰か。</p> <p>4. 薬師寺の建物で、現在解体修理が行われているのは。</p> <p>5. 薬師寺金堂の薬師三尊像について、誤った記述は。</p> <p>6. 薬師寺において玄武<small>げんぶ</small>など四神の有名な彫刻があるのはどこか。</p> <p>7. 薬師寺の国宝吉祥天画像が描かれた時代はいつか。</p> <p>8. 薬師寺の寺宝である平安時代作の国宝肖像画に描かれているのは誰か。</p> <p>9. 「水に映る薬師寺東塔」「薬師寺塔遠望」「宵月薬師寺伽藍<small>よいつきやくしじがらん</small>」などが知られる写真家は誰か。</p> <p>10. 薬師寺玄奘三蔵院<small>げんじょうさんぞういん</small>の大唐西域壁画<small>だいとうせいいきへきが</small>を描いた画家は誰か。</p>	

解 答	問 題	
<b>第 14 回 「長谷・室生」</b>		
<b>1. 出雲人形</b>	1. かつて長谷寺への参詣者や伊勢街道の旅人などがお土産とし、現在県伝統的工芸品に指定されているのは。	
<b>2. だだおし</b>	2. 長谷寺の修二会結願の法要で本堂の周りを鬼が駆け回るのは。	
<b>3. 第 8 番</b>	3. 長谷寺は西国三十三所観音霊場の第何番札所であるか。	
<b>4. こもりくの</b>	4. 長谷は「泊瀬」などとも書かれるが、これにかかる言葉として知られるのは。	
<b>5. ボタン</b>	5. 長谷寺は「花の寺」として知られるが中でも約 7000 株におよぶのは。	
<b>6. シャクナゲ</b>	6. 室生寺の境内に約 3000 株が植えられ、この寺を花の名所として有名にしているのは。	
<b>7. 桂昌院</b>	7. 室生寺は「女人高野」として知られているが、そのきっかけをつくったといわれる女性は誰か。	
<b>8. 龍穴神社</b>	8. 古来、室生寺と関係が深く、祈雨や止雨の祭祀が行われた室生川に臨む神社は。	
<b>9. 薬師如来</b>	9. 室生寺金堂の中央にまつられる国宝釈迦如来立像は近世までどの如来とされてきたか。	
<b>10. 十一面観音</b>	10. 手に錫杖を持つ独特な姿をした長谷寺の本尊は。	
<b>第 15 回 「東大寺」</b>		
<b>1. 金鐘寺</b>	1. 若草山の麓に建てられ、東大寺の前身寺院と言われる寺院は。	
<b>2. 造東大寺司</b>	2. 東大寺創建時の伽藍造営に当たった国家組織の名称は。	
<b>3. 大華嚴寺</b>	3. 東大寺南大門に掲げられている扁額 <small>へんがく</small> に記された文字は。	
<b>4. 蓮華座</b>	4. 大仏殿の盧舎那仏 <small>るしやなぶつ</small> について創建期のものが残っているのはどの部分か。	
<b>5. 平重衡</b>	5. 平安末期、反平氏の立場をとった奈良の寺院を攻め、東大寺や興福寺を焼いた武将はだれか。	
<b>6. 良弁</b>	6. 幼時のとき鷲にさらわれ二月堂下の杉に置かれたという伝説をもつ東大寺初代別当は誰か。	
<b>7. 1271 回目</b>	7. 大仏開眼 <small>だいぶつかいげん</small> の年から毎年欠かさず行われ、「不退 <small>ふたい</small> の行法 <small>ぎょうほう</small> 」といわれる二月堂の修二会は令和 4 年（2022）で何回目にあたるか。	
<b>8. 11 名</b>	8. 二月堂修二会において、法会に参加する練行衆 <small>れんぎょうしゅう</small> は現在何名か。（1 級類題あり）	
<b>9. 脱活乾漆造</b>	9. 法華堂の本尊である不空縹索観音立像 <small>ふくうけんさくくわんのん</small> の造像法は。	
<b>10. 知足院</b>	10. 国の天然記念物に指定されたナラノヤエザクラが咲く東大寺の塔頭 <small>たつちゆう</small> は。	



解 答	問 題	
<p><b>第 16 回</b></p> <p><b>蘇我馬子</b></p> <p>1. 八角形</p> <p>2. 50 周年</p> <p>3. 天文図</p> <p>5. 牽牛子塚 古墳</p> <p>6. 二面石</p> <p>7. 蘇我入鹿</p> <p>8. 天狗と お多福</p> <p>9. 斑鳩町</p> <p>10. キトラ古墳 周辺地区</p>	<p><b>「飛鳥」</b></p> <p>1. 石舞台古墳は、誰の墓の可能性が高いといわれているか。</p> <p>2. 真の「文武天皇陵」ともいわれる中尾山古墳の墳形は。</p> <p>3. 高松塚古墳の壁画が発見されてから令和 4 年（2022）で何周年か。</p> <p>4. キトラ古墳の石室天井の中央に描かれているのは。</p> <p>5. 令和 4 年（2022）に幾何学的な墳丘が整備された古墳は。</p> <p>6. 明日香村に点在する多くの石造物のうち、橘寺の境内にあるのは。</p> <p>7. 飛鳥寺本堂の西方約 100mにある花崗岩製の五輪塔は誰の首塚と伝わるか。</p> <p>8. 飛鳥坐神社の「おんだ祭り」で、田植えの所作の後に登場するのは。</p> <p>9. 橿原市、桜井市、斑鳩町、高取町のなかで明日香村に行政区域が接していないのは。</p> <p>10. 国営飛鳥歴史公園で、平成 28 年（2016）に開園した地区は。</p>	
<p><b>第 17 回</b></p> <p>1. 平成 5 年 (1993)</p> <p>2. 推古 15 年頃 (607)</p> <p>3. 釈迦三尊像</p> <p>4. 塑造</p> <p>5. 鎌が 4 本</p> <p>6. 聖霊院</p> <p>7. 中門</p> <p>8. 西円堂</p> <p>9. 水瓶</p> <p>10. 正岡子規</p>	<p><b>「法隆寺」</b></p> <p>1. 法隆寺が世界遺産に登録されたのはいつか。</p> <p>2. 聖徳太子が父用明天皇の遺志を引き継ぎ、斑鳩寺を建てたのは何年頃か。</p> <p>3. 法隆寺金堂の「中の間」にまつられる像は。</p> <p>4. 法隆寺五重塔初層にある、仏教説話を表現した群像の素材による分類は。</p> <p>5. 法隆寺五重塔の相輪にみられる他にない特徴は。</p> <p>6. 聖徳太子像をまつり、「お会式」が行われる法隆寺の建物は。</p> <p>7. 法隆寺西院伽藍の諸門のうち、金剛力士立像（仁王像）が立つ門は。</p> <p>8. 「峯の薬師」と呼ばれる薬師如来像をまつる建物は。</p> <p>9. 法隆寺の大宝藏院にまつられる「百済観音像」が左手に持つのは。</p> <p>10. 「柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺」と詠んだ文学者は。</p>	



(Illust Ac)

## 【「奈良まほろばソムリエ」合格まで使える書籍】

- |                           |                     |            |        |
|---------------------------|---------------------|------------|--------|
| 1. 『奈良県の歴史散歩』（上・下）        | 奈良県高等学校教科書等研究会歴史部会編 |            |        |
|                           | 山川出版社               |            | 各1200円 |
| 2. 『奈良の寺』 奈良文化財研究所編       | 岩波新書                |            | 780円   |
| 3. 『古代国家の成立』（日本の歴史2）      | 直木幸次郎著              | 中公文庫       | 1143円  |
| 4. 『奈良の都』（日本の歴史3）         | 青木和夫著               | 同上         | 1238円  |
| 5. 『日本100の仏像』 田中日佐夫監修     | （JTBキャンブックス）JTB     |            | 1700円  |
| 6. 『きょうの奈良—まほろばの365日』     | 小野久仁子著              | 紫紅社        | 1300円  |
| 7. 『奈良の隠れ名所』              | 当会著                 | じっぴコンパクト新書 | 900円   |
| 8. 『増補改訂版 奈良「地理・地名・地図」の謎』 | 当会監修                | 同上         | 1000円  |
| 9. 『奈良百寺巡礼』               | 当会著                 | 京阪奈情報教育出版  | 980円   |
| 10. 『奈良万葉の旅百首』            | 当会著                 | 同上         | 1000円  |

この冊子のPDFファイル:NPO 法人「奈良まほろばソムリエの会」  
公式ホームページ「リンク集」内